



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治二一年
Citation	北大百年史, 史料(二), 97-153
Issue Date	1981-07-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30066
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo2_p97-153.pdf



明治二年

六八七 予備科後期授業時間割通達

自明治廿一年一月廿一日至同年六月卅日後學期間予備科授業日割別紙之通被相定候条此段御通達ニおよび候也

明治廿一年一月十三日

中根助教◎

予備科教官各位◎(手島)◎(佐瀬)◎(小寺)◎(盛)

追而週尾より小官迄御返附有之度候也

〔別紙〕

自明治二十一年一月廿一日後學期間予備科授業日割至同年六月卅日

予備科第老級

曜日	時間		曜日	時間	
	自午前八時半	自午前九時半		自午前九時半	自午前十時半
月	翻訳 (中根助教)	化学 (佐瀬助教)	月	自由画法 (山口彦二郎)	幾何学 (大嶋助教)
火	英文学 (大嶋助教)	動物学 (小寺助教)	火	健全学 (小寺助教)	体 (高田信清)
水	英文学 (大嶋助教)	化学 (小寺助教)	水	和漢文学 (山崎助教)	同
木	英文学 (大嶋助教)	動物学 (小寺助教)	木	健全学 (山崎助教)	同
金	英語	化学	金	和漢文学 (山崎助教)	同
土	英文学	動物学	土	健全学	同
				自由画法 (山口彦二郎)	同
					自由画法 (山口彦二郎)

予備科第二級

月	火	水	木	金	土
代数学 (手島助教)	同	同	同	同	同
読法及訳読 (大嶋助教)	健全学 (小寺助教)	読法及訳読 (小寺助教)	同	健全学	読法及訳読
植物学 (小寺助教)	和漢文学 (山崎助教)	植物学	和漢文学	植物学	和漢文学
英語 (小寺助教)	英語	英語	英語	英語	英語
体 (高田信清)	体 (高田信清)	体 (高田信清)	体 (高田信清)	体 (高田信清)	体 (高田信清)

予備科第三級

月	火	水	木	金	土
歴史 (佐瀬助教)	同	同	同	同	同
読法及訳読 (中根助教)	英語 (佐瀬助教)	読法及訳読	英語 (佐瀬助教)	読法及訳読	英語 (佐瀬助教)
算数学 (大嶋助教)	同	同	同	同	同
文法 (小寺助教)	和漢文学 (山崎助教)	文法	和漢文学	文法	和漢文学
和漢文学	和漢文学	和漢文学	和漢文学	和漢文学	和漢文学

予備科第四級

月	火	水	木	金	土
読法及訳読 (小寺助教)	同	同	同	同	同
和漢文学 (山崎助教)	同	同	同	同	同
英語 (中根助教)	同	同	同	同	同
習字 (中根助教)	習字 (中根助教)	習字 (中根助教)	習字 (中根助教)	習字 (中根助教)	習字 (中根助教)
地理学 (中根助教)	地理学 (中根助教)	地理学 (中根助教)	地理学 (中根助教)	地理学 (中根助教)	地理学 (中根助教)

六八八 本科後期授業時間割通達

明治二十一年一月廿一日より同年六月三十日ニ至ル本科各級課程授業時間割及日割別表之通り被相定候条此段御通達ニおよび候也

一月十八日

中根助教[㊟]

須藤助教[㊟]

南助教[㊟]

手嶋助教[㊟]
J.T.

〔別紙〕

自明治二十一年一月廿一日至同年六月卅日 本科各級後学期課程授業日割及時間割
至同

第四年級

曜日						時間
月	火	水	木	金	土	自午前八時半 至同九時半
(獣医学) (須藤助教)	同	同	同	同	同	自午前九時半 至同十時半
(ブルックス教授) 農業経済及農業 法律 (佐藤教授)	同	農業経済及農業 学 法律	同	同	同	自午前十一時半 至同十二時半
(土木工学) (土木工 教師)	同	同	同	同	同	自午前十二時半 至同一時
(物理) (ト 教師)	同	同	同	同	同	自午後二時 至同三時
(兵) (高田信清氏)	兵学	同	同	同	同	自午後二時半 至午後三時半
(獣医学実験) (須藤助教)	獣医学実験	同	同	同	同	自午後二時 至同四時
乗馬稽古	乗馬稽古	同	同	同	同	

第一年級農学科

土	金	木	水	火	月
英 文 学	同	同	同	同	(手 嶋 助 教 術)
同	同	農	英 文 学	(農 ブルツクス 教師)	(英 文 教師)
(山 口 彦 二 郎 氏)	自 至 同 在 画 法	自 午前 十 時 半 至 同 午 十二 時 半			
	同	同	同	同	(△無 機 化学 学 スト ツク ブリ 教師)
兵 学		(兵 高 田 氏)			
	図 測 量 術 実 習 及 製		(手 嶋 助 教 術)		
		農 業 実 習		(農 業 助 教 術)	

○春季休業後ヨリ地質学及金石学ヲ授業ス

第三年級

土	金	木	水	火	月
同	同	同	同	同	(○農 業 化学 学 スト ツク ブリ 教師)
同	同	同	同	同	(動 物 学 須 藤 助 教 術)
同	同	同	同	同	(農 ブルツクス 教師)
經 済 学	經 済 学		(經 済 学 佐 藤 教 授)		
兵 学				(兵 高 田 氏)	
	乘 馬 稽 古			乘 馬 稽 古	

第一年級工学科

月	火	水	木	金	土
三角術及測量術 (教師)	同	同	同	同	英文学
英文学 (教師)	代数幾何学 (ヘルト教師)	英文学	代数幾何学	同	同
英文学					
△無機化学 (ストックブリ ツジ教師)	同	同	同	同	兵学
			兵学		
幾何画法 (手嶋助教)	測量術及製図 (手嶋助教)	幾何画法	測量術及製図		

△春季休業後ヨリ農工学科共ニ月火木金之四曜日午前十時三十分ヨリ同十二時三十分迄分析化学ヲ授業ス

〔農八七六〕

六八九 入学受験者仮入学許可の儀伺

明治廿一年一月廿八日仕出

助教中根寿郎

竹下道次郎

河野市次郎

松村松年

校長代理 ⑨(佐藤)

書記 ⑨(河田)

第五一号

入学受験者仮入学許可之義伺

予備科仮入学許可候事
但シ第二級ニ編入ス
但シ第三級ニ編入ス

菊池土之助

先般来施行候入学試験成績之義ニ付別紙之通り試験官中根助教等ヨリ上申候ニ就テハ試験及第者八名仮入学御許可相成可然哉口達按添此段相伺候也

予備科仮入学許可候事
但シ第四級ニ編入ス

口達按

並河波藏 窪田定次郎 鹿討豊太郎 味岡三六

札幌農学校

〔農八七六〕

六九〇 研究生帝国大学へ入学の件認可

札幌農学校校長代理幹事佐藤昌介

本年一月廿四日番外上請研究生帝国大学へ入学ノ件ハ許可ス

明治廿一年二月十五日

北海道庁長官岩村通俊代理

北海道庁理事官佐藤秀顕 印

付 研究生一名帝国大学へ入学の儀伺

番外

研究生一名帝国大学へ入学為致度儀伺

研究生野沢俊次郎

右ハ昆虫学専修罷在候処本校ニ於テハ該学専門ノ教師ニ乏シク到底
充分ノ研究行届兼候ニ付テハ向フ尅個年半帝国大学へ入学修業為致
度候条御裁可相成度此段相伺候也

札幌農学校校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介 印

明治二十年十二月十九日

北海道庁長官岩村通俊殿代理

北海道庁理事官佐藤秀顕殿

〔農三四七〕

六九一 校長限り処分事項追加に付達

北海道庁訓令号外

札幌農学校

明治二十年六月廿日号外訓令其校長限り処分事項左ノ通追加ス

北海道庁長官岩村通俊代理

明治廿一年二月二十日 北海道庁理事官佐藤秀顕 印

第二十 予算内ニ属スル校舍新営修繕ノコト

第二十二 不用物品払下ノコト

第二十三 附属舎ヲ貸与スルコト

第二十三 予算科目中節流用ノコト 〔農三四七〕

六九二 師範学校より申出の英語教授嘱託に付回答

番外

英語教授嘱託之儀ニ付御回答按

貴校小学校英語科教授之儀這回石川貞治へノ嘱託ヲ被解候ニ付更ニ
本校四年生之内一週七時間報酬月金拾円ヲ以差向方第八一号ヲ以御
依頼之趣了承則橋本左五郎ヲ以テ御需メニ可応候此段及御回答候也

明治二十一年七月三日

校長代理

師範学校長宛

追申石川貞治へ之辞令正ニ伝達致候此段申添候也

〔農三四九〕

六九三 ブルックス叙勲の儀上請

番外

ブルックス教師叙勲ノ儀上請

一 勲四等

ウキリアム、ピーブルックス

右者明治十年旧開拓使ノ当時農学教師并農校園監督トシテ雇聘相成候以來^{〔邑〕}別表ノ通雇継效ニ十二ケ年ノ久シキ農学各科ヲ担当シ且ツ明治十三年已來ハ植物学教師ヲモ兼務シ惣テ講究実験能ク学生ヲ陶冶シ加フルニ又タ明治十三年八月以降同十九年十二月本校官制ノ改定ニ至ルノ間六ケ年余教頭心得ノ任ヲ帶ヒ勵精刻苦学業ノ進歩ヲ謀リ此間七十余名ノ卒業農学士ヲ輩出スル等同人ノ力与ツテ多キニ居リ且農園監督ノ任ニ在テハ其初ニ当リ予メ将来ノ計画ヲ定メ排水管ヲ布設シ土質ヲ改良シ各種ノ植物ヲ栽培シテ之カ適否ヲ試験シ牛馬ノ力ヲ仮リ器械農具ヲ使用シ以テ費用ヲ減シ収益ヲ図ル等單思研究能ク其職務ヲ尽シ其他旧札幌県并北海道庁勸業顧問トナリ北海道農業ノ改良ヲ謀リ一般ニ利益ヲ与ヘシ等多年ノ功勞成績顯著ニ付キ特議ヲ以テ頭書ノ通叙勲相成候様其筋ヘ御稟議相成度此段上請候也

明治廿一年七月九日

校長代理

長官宛

〔注〕 別表雇繼一覽を略す。

〔農三四九〕

六九四 病畜治療所設置に付伺

病畜治療所設置仕度宿願ニ有之候処別紙之通案出候ニ付御熟考之上何分之御指令相成度此段相伺候也

明治廿一年七月九日

札幌農学校教授須藤義衛門^印

札幌農学校長代理幹事佐藤昌介殿

〔別紙〕

病畜治療所設置ノ旨意

- 一 札幌地方馬匹ヲ驅使スルモノ頗ル多シ搾乳養豚ノ業ニ従事スルモノモ往々之アリ從テ畜病治療所ノ設ナカル可ラス
- 二 当地方ニ於テ畜病ノ治療ハ今尚之ヲ旧伯耆若クハ馬商ノ手ニ委ネ其療法ハ僅ニ數種ノ草根木皮ヲ投スルト鍼灸刺絡ノ術ヲ施スニ止ルヲ見ル其療法當ヲ得サルハ勿論農商務省令獸医開業免許規則ニ抵触スルモノナリ今此弊ヲ矯メンニハ畜病治療所ヲ設ケ泰西獸医術ノ精妙ニシテ信憑スヘキヲ知ラシムルヲ要ス
- 三 蹄鉄業ノ本道ニ要アルハ言ヲ待タス今札幌地方当業者ノ景況ヲ觀ルニ其術未タ熟セス鉄ヲ裝スルニ蹄ノ健否及脚位ノ整不整ニ考

及スルコトナク単ニ尋常一般ノ法ニ頼ル宜ニ從テ其法ノ變スヘキヲ知ラサルモノ、如シ病畜治療所ヲ設クルハ自カラ蹄鉄術ノ改良ヲ促スノ方便ナリトス

四 病畜治療所ヲ設クルニ非レハ本校農学科学生及農芸伝習科生徒獸医学実習ノ材料ヲ得ル難シ

五 本校農芸伝習科生徒中牧畜ノ業ヲ志ス者ヲ撰ミ卒業后尚六ヶ月間特ニ獸医学ヲ教授シ獸医開業免許ヲ得セシメハ他日本道諸郡ニ於テ自家專業ニ従事スルニ方リ獸医ノ術ヲ以テ独リ自家ノ營業ヲ益スルヲ得ルノミナラス其地方家畜飼養者ノ為ニ力ヲ効スヲ得ルナリ若シ此言ニシテ果テ行ハルヘクンハ病畜治療所ノ設ナカルラス

六 病畜治療所ヲ設クレハ官民共ニ其便益ヲ享クルコト少小ニアラス

七 本校ニ病畜治療所ヲ設クレハ官民共ニ本校ノ直接ニ世ニ益アルヲ知ルニ至ル

八 病畜治療所ヲ設クルハ獸医学進歩ノ基礎ナリ

病畜治療所設立ノ方法

- 一 本校ニ病畜係ヲ置クコト
- 一 病畜係ニ医員二名蹄鉄師書記各々宅名ヲ置ク
- 一 医員ハ病畜ヲ診察治療シ病畜ノ種類頭數及治療ノ効跡ヲ記録ニ

附ス

- 一 蹄鉄師ハ医員ノ命ヲ受ケ削蹄裝鉄シ側ヲ治療ノ助手ヲ為ス
- 一 書記ハ都テ病畜取扱上有要ノ帳簿ヲ調製保管シ病畜依頼人ニ薬価ノ請取証ヲ附与ス
- 一 治療器械ハ本校備附ノモノヲ用フ不足ノ分ハ獸医学予算額内ヲ以テ漸次之ヲ補フモノトス
- 一 薬品ハ農園備附ノ薬品ト獸医科定額ヲ以テ買置ケル分トヲ合シテ用ニ充ツ不足ノ分ハ獸医科定額及農園薬品買上料ヲ以テ漸次補充スルモノトス
- 一 病畜診断治療所ハ農園内ニ新築ス此新築費ハ百円許ニ当ル
- 一 薬室及治療器械室ハ農園建物ノ内一室ヲ画シテ此ニ之ヲ設ク
- 一 病畜治療ノ依頼ニ応スル旨新聞紙ヲ以テ一週間公告スルコト
- 一 病畜依頼人心得
 - 一 病畜ハ牛馬羊豚犬家禽トス
 - 一 病畜診断時間ハ毎日午后第二時ヨリ同第四時迄トス
 - 一 但土曜日曜ノ両日ハ休業トス
 - 一 家畜飼養者ノ依頼ニ応シ往診スルコトアルヘシ
 - 一 但本校学生授業中ハ往診ヲ謝絶ス
 - 一 病畜依頼人ハ牽来レル病畜ヲ病畜診断所ニ繋キ置キ直ニ農園事務所ニ申出ツヘシ

一 病畜診断ノ上ハ処方書若クハ藥品ヲ附与ス

但診断ハ無料ナリト雖トモ薬価ハ即納スヘシ

一 遠隔地方ノ家畜飼養者ヨリ畜病ニ就キ質問ヲ受クルトキハ応答スヘシ

〔農三四九〕

六九五 独逸学研究会開催のため教場借用願

教場借用願

私共儀今般独逸学研究会相開候処相当之場所ニ差支候間毎日午后第四時ヨリ同五時迄獣医学教場拝借仕度此段奉願上候也

明治廿一年八月八日

教授須藤義衛門[㊟]

助教南 鷹次郎[㊟]

同 中根 寿[㊟]

同 佐瀬辰三郎[㊟]

札幌農学校長代理幹事佐藤昌介殿

〔朱書〕
願之趣聞届候事

明治二十一年八月八日

〔農三三九〕

六九六 外国人教師雇入方に付伺(八月一五日起案)

番外

教師雇入方ノ儀ニ付伺

今般本校農学教師ブルツクス辭職ニ付跡替米國ヨリ雇入ノ儀内閣御認可相成候ニ付テハ右雇入方在華盛頓府陸奥公使へ御委托相成度該御照会案相添此段相伺候也

〔ママ〕

明治二十年八月 日

長官宛

校長代理

〔別紙〕

陸奥公使へ御照会按

当庁所轄札幌農学校農学及本草学教師米國人ウキリアムビーブルツクス儀止ヲ得サル事故有之辭職ニ付跡替ノ教師年俸貳千五百円ヨリ三千五百円迄ノ内ヲ以テ向フ三ケ年間米國ヨリ雇入ノ儀今般内閣稟裁済ニ有之元來教師ヲ米國ヨリ雇聘スルノ要ハ北海道拓地殖民上模範ヲ彼ニ取ルヘキモノ不尠故ニ同國人ニシテ農業ノ学理実験ニ富ミ候モノヲ聘用スルハ最モ便益アルニ依リ候儀ニシテ右ブルツクスノ如キモマツサチユセツツ州農学校出身明治十年一月以降職ヲ札幌農学校ニ奉シ多年実地ノ經驗ヲ積ミ学生ノ薰陶懇切ナル良教師ナルヲ以テ這回ノ離任ハ深ク惜ム処ニ有之就テハ後任ノ儀モ右マツサチユ

〔ママ〕

セツツ州農學校ヲ卒業セシ學士ニシテ充分子アル者ヲ雇聘シシ本
道ノ農業進歩ヲ謀度候ニ付殊ニ乍御手数該農學校教頭グテール氏へ
御協議ノ上適當ノモノ御撰択俸給ハ前陳金額ノ範圍内ヲ以テ向フ三
ヶ年間条約方御取計學課ノ都合モ有之候ニ付是非本年十一月迄ニ着
任相成候様御配慮ヲ煩度依テ該教師赴任旅費金四百五十拾円ハ貴衝ヨ
リ御達次第相納候様正金銀行江通達爲致置候間雇教師出発ノ節御交
付相成様致度別紙約案書案相添此段及御依頼候也

明治二十一年八月 日

長官

公使宛

追申本文教師ハ農學兼本草學ヲ教授シ得ルモノニ候ハ、好都合ニ
候得共若シ其人ヲ難得候ハ、農學ヲ専務トシ充分其教授ニ堪能ナ
ルモノヲ御推薦相成様致度此段申添候也

* 約条書中第五條云々又ハ免職セントスル時ハ四ヶ月前ノ
報知ニテ廢約スルヲ得ヘシト改メ他ハヘート氏ノ條約ニ
同シキヲ以テ扣ヲ留メス

〔農三四七〕

六九七 本科及び予備科前期授業時間割通達

本科予備科課程授業日割別表之通り被相定候条此段御通達ニおよひ候也

明治廿一年八月卅一日

須藤教授殿印

大嶋助教殿印

南助教殿印

佐瀨助教殿印

山崎助教殿印

玉井喜作殿印

別紙

本科第四年級課程時間割

中根助教印

午前八時半 ヨリ	同九時半迄	同九時半ヨ リ	同十時半迄	同十時半ヨ リ	同十一時半 迄	同十一時半 迄	同十二時半 迄	午後二時よ り	同三時迄	午後二時よ り	同四時迄
農 学 (ブルツク ス教師)	同	獸 医 学 (須藤教授)	同	物 理 学 (ヘイト教 師)	同	地 質 学 (ストック ブリッジ 教師)	同	独 逸 語 (玉井氏)	同	同	同
火	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
水	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
木	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
金	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
土	同	農 学 討 論 (ブルツク ス氏)	同	同	農 学 討 論	同	同	同	同	同	同

農学科第二一年級課程時間割

午前八時半	重学	月
より	（師ヘイト教）	
同九時半迄	史学	火
	（佐藤教授）	
同九時半より	重学	水
同九時半迄	史学	木
同十時半より	重学	金
同十時半迄	史学	土
同十時半より	同	
同十二時半迄	同	
（マ）		
同一時より	同	
同二時迄	同	
午後一時より	同	
午後二時迄	同	
同三時迄	同	
午後二時より	同	
同四時迄	同	

工學科第三年級課程時間割

午前八時半	重学史学重学史学	月火水木金土
より九時半迄 （師ヘイト教） （佐藤教授）	同	
同九時半より 代數幾何	同	
同十時半迄 （師ヘイト教）	同	

農学科第一一年級課程時間割

同 二時迄	午後一時ヨリ 四時迄	午後二時ヨリ 三時迄	午後二時ヨリ 三時迄	午後二時ヨリ 三時迄	同 十二時半迄	より 十一時半迄	同 十一時半迄	同 十時半より
		測量製図			(大嶋助教) 星学		地誌学	
			独逸語 (玉井氏)				同	
独逸語 (玉井氏)					同			
		測量製図					同	
			独逸語		同		同	

午前八時半 より 同九時半迄	人身生理英 及健全法 (須藤教授)	月
午前九時半 より 同十時半迄	無機化学 (ストック 教師)	火
同十時半 より 同十一時半迄	農学 (フルツク ス教師)	水
	同	木
	同	金
	同	土

午前八時半 より 同九時半ま て	幾何学 (大嶋助教)	月	火	水	木	金	土
同	同						
同	同						
同	同						
同	同						
同	同						

予備科課程時間割第老級

午前八時半 より 同九時半迄 同九時半ま て	人身生理 (須藤教授)	月	火	水	木	金	土
同九時半迄 無機化学 (ブリッジ 教師)	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						

工学科第一年級課程時間割

午前十一時半 より 同十二時半 迄	英語三角術 (ヘイト教 師)	月	火	水	木	金	土
午後二時 より 同四時迄	農業実習 (南助教)						
同	同						
同	同						
同	同						
同	同						

午前八時半 より 同九時半ま て	読法及訳 (佐瀬助教)	月	火	水	木	金	土
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						

第貳級

午前八時半 より 同九時半ま て	和漢学修 (山崎助教)	月	火	水	木	金	土
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						
同九時半ま て	同						

相成度此段奉願候也

明治二十一年九月十五日

農芸伝習科事務所御中

農芸伝習科生徒 織田恭也

平山龍造

〔農三七四〕

六九九 北海道拓地殖民の要務に付長官訓示

当道拓地殖民ノ事業ハ方今国家緊急ノ最要務タルハ言ヲ俟タスト雖トモ曩ニ三県一局分治ノ制ヲ廃シテ北海道庁ヲ置カレ付スルニ巨額ノ經費ヲ以テスルモノハ他ナシ拓地殖民ノ緊急事業ヲ挙ケントスルノ盛意ニ出ルモノニシテ乃チ置庁後ハ力メテ複雑ノ組織ヲ廢シテ簡捷ノ構造ニ改メ無益ノ經費ヲ減シテ必要ノ事業ニ移セシヲ以テ稍面目ヲ一新スルニ至レリ是レ畢竟前長官カ政府ノ旨意ヲ体認シ針路宜ヲ得タルニ外ナラス武四郎新ニ乏ヲ長官ニ承ケ日夜置庁ノ盛意ニ背カサランコトヲ期シ焦慮措ク能ハス惟フニ事業ノ擴張ニ伴フテ要スルモノハ必ス經費ナリ經費繼カサレハ事業ノ擴張望ムヘカラス今ヤ国用不貲政費節約ヲ要スルノ際定額ノ増加容易ニ望ムヘカラスハ論ナキノミナラス政費節約ノ際ニ拘ラス当庁經費ハ既ニ巨多ノ金額ヲ充テラレタレハ可成通常ノ經費ヲ省テ専ラ本分ノ事業ニ充用シ拓地殖民ノ実ヲ挙ケサルヘカラスト雖トモ置庁後星霜ヲ閱スル三年経

費ヲ耗スル大約七百九十余万円ナラントス而シテ此ノ過半五百九十余万円ハ通常庁治ニ費用シ拓地殖民ノ本分事業ニ供スルモノ僅々百九十万円ニ過キス是レ置庁ノ旨趣予期ノ方針未タ貫徹セサルニ因ル若シ此儘ニシテ經過セハ今後事業ノ挙否ハ之ヲ既往ノ実験ニ徴スルモ推知スルヲ得ヘク果シテ然ラハ何レノ時カ予期ノ目的ヲ達スルコトヲ得ンヤ依テ通常事務ノ如キハ尚当初予定ノ針路ヲ蹈ミ其省キ得キモノハ勉メテ猛省シ成規例格ニシテ本道現今ノ景状ニ適セサルモノハ之ヲ釐革シ就中人民願届書ノ如キハ処分敏捷利便ヲ与ヘ渋滞阻隔ノ弊ナカラシメ百般ノ事務愈繁ヲ去リ簡ニ就カシムルノ旨趣ヲ発達セシメ是レニ因テ余シ得ル所ノ經費金額ヲ以テ緊急ノ事業ニ運用シ満庁ノ吏員協同一致緊忍不拔以テ之ニ従事セハ本道ノ開明ヲ觀ル敢テ至難ニアラサルヘシ各位幸ニ此ニ注意シ銳意従事奏功ヲ必期セラレ度若シ夫レ前陳ノ旨趣ニ基キ今後施行ノ方策ハ事実ニ就キ考案ヲ尽シ細大腹臍ナク吐露セラレンコトヲ望ム

明治二十一年十月十二日

北海道庁長官永山武四郎

印

校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介殿

〔農三四七〕

七〇〇 助教広井勇帰朝命令に付上申(一〇月一五日起案)

番外

助教広井勇帰朝被命度儀上申

本校工学科教員目下欠員ニテ授業差支候ニ付テハ昨二十年三月ヨリ向フ三ヶ年間独逸国留学被命候本校助教広井勇儀来ル二十二年八月ヲ期シ帰朝被命且右期限迄英仏独ノ三ヶ国ヲ巡回シ土木ノ実況視察候様御訓令相成度別紙按相添此段上申候也

明治二十一年十月 日

校長代理

長官宛

〔別紙〕

〔御訓令按〕

札幌農学校助教広井勇

今般帰朝ヲ命シタルニ付心得方左ニ

第一条 来ル明治二十二年八月ヲ期シ帰朝スヘシ

第二条 右期限前ハ英仏独ノ諸国ヲ巡回シ鉄道其他土木ニ関スル工

事親シク視察スヘシ

右訓令ス

明治二十年十月 日

長官

〔農三四九〕

七〇一 外国人教師雇入に付米国陸奥公使より回答

去八月十八日付第一部甲第二百五拾七号去九月廿日接到貴庁所轄札

札幌農学校農学及本草学教師雇入之義ニ付条約案相添御依頼之趣致承

知候御来示之趣ニ因リ早速「マサチユウセツツ」州農学校長グデル

氏へ照会候如最初メーリランド州農学校試験園長ウキラム、エー

チ、ビシヨツプ氏ナル者勸奨シ来候ニ付即書面往復并面談之末右ビ

シヨツプ氏ハ当人家事ノ都合ニ因リ乍遺憾招聘ニ応シ難キ旨申出候

ニ付更ニグデル氏へ照会之処別紙^{〔注〕}通書面ヲ以テ「マサチユウセ

ツツ」州「マルボロー」ノアルサル、エ、ブリガム氏ヲ指名致具候間

同氏ト書面并ニ電信ニテ往復之末同人ヨリ米金貳千五百弗要求相成

候得共米金ヲ本位トシテ条約ヲ結ブハ不都合ニ付目下ノ相場ニ因リ

年俸三千三百五拾円ト定メ且同人ノ情願ニ依リ来ル十一月廿八日桑

港出発ノ筈ニテ雇入ルヘキ旨昨日決着相成候就テハ不日条約書ヘ調

印ノ運ヒニ可至ト存候尤モ御来書中十一月迄ニ其地ヘ到着候様配慮

可致旨御申越ニ候得共前述之手続ニ多少之日子ヲ費且ブリガム氏は

迄担任之事務取片付并ニ妻子供支度等之為メ来月廿八日桑港出帆ハ

極々短縮セル日時ニ有之候趣ニ付不得止事情ニ御坐候間其意ニ任セ

候義ニ有之候

右申進候也

明治廿一年十月二十日

在米国特命全權公使陸奥宗光

北海道庁長官永山武四郎殿

〔注〕 別紙を欠く。

〔農三四七〕

七〇二 アーサー・A・ブリガム条約書

明治二十一年十月二十九日即チ西曆千八百八十八年十月二十九日

第一方ハ亜米利加合衆国駐劄日本皇帝陛下ノ特命全權公使陸奥宗光日本帝國政府ニ代リ（以下日本政府或ハ第一方ト称ス）第二方ハ亜米利加合衆国マサチュウセツ州マルボロー、アルサル、エ、ブリガム氏（以下第二方ト称ス）ト結約スル條款左ノ如シ

第一条

右第一方ハ此約定ニ因テ右第二方ヲ雇入レ同氏ハ此約書調印次第成ルヘク速ニ日本ニ向テ出発シ日本東京ニ着到シタル日ヨリ三ケ年間農學教授トシテ北海道庁長官ヨリ命セラレタル地方及學校ニ於テ日本政府ニ奉職スヘキヲ約ス

第二条

第二方ハ亜米利加合衆国マサチュウセツ州マルボローヨリ日本東京マテノ旅費トシテ日本銀貨四百五十拾円或ハ其同価ノモノヲ受クヘシ

第三条

第二方ハ日本到着次第直ニ北海道庁長官ヘ到着届ヲ為シ雇期限中ハ同長官命スル処ノ校長又ハ代理ノ命令ヲ遵奉シ北海道庁ノ規則法令ニ一切違背スヘカラス

第四条

第二方ハ信実勉勵其職務ヲ奉シ謹慎ナルヘシ且ツ校長若シクハ代理者ノ許可ナクシテ其職務中欠席或ハ他行スヘカラス而シテ其全力ヲ日本政府ニ尽シ直接間接ノ別ナク商業其他職外ノ事業ニ関係スヘカラス

第五条

約定期限中^{但シ會計上ノ都合ニ依リ}日本銀貨參千參百五十拾円ト定メ之ヲ十二ケ月ニ割リ毎月日本銀貨若クハ北海道庁ノ都合ニ依リ同相場ノ紙幣ヲ同氏ヘ払フヘシ尤モ此給料ハ同氏若シ不幸ニシテ死去シ或ハ放免又ハ約定満期ノ日ニ廃スルモノニシテ此給料ハ奉職セシ毎月ノ末ニ払フモノナリ即チ第一ノ渡方ハ上文載スル処ノ如ク同氏日本東京ヘ到着ノ日ヨリ起算シ一ケ月ニ於テスルモノトス^{但シ會計上ノ都合ニ依リ}給料渡方ハ現月末日數ハ日割ヲ以テ計算シ其月ノ勘定ヲ終フルコトアルヘシ双方共止ムヲ得サル都合ニ依リテ雇ヲ止メ又ハ免職セントスルトキハ四ケ月前ノ報知ニテ廃約スルヲ得ヘシ第一方ヨリ此約定ヲ廃スルトキハ解約ノ日ヨリ向フ二ケ月ニ相当スル給料ノミ第二方ニ渡スヘシ若シ第二方ヨリ請求スルトキハ現ニ奉職スル迄ノ給料ノミヲ相払ヒ直ニ廃約スヘシ

第六条

約定期限中ハ日本政府ヨリ第二方ニ家具ヲ備ヘサル適宜ノ家屋ヲ給シ或ハ北海道庁ノ都合ニ依リ家屋ノ代リ家稅トシテ満現曆月毎

ニ日本通貨貳拾円ヲ給スヘシ尤モ月端日数ハ日割ヲ以テ計算スヘシ

但シ本条ノ家屋ヲ給スル場合ニ於テハ修繕ハ第一方ニ於テ負担スヘシト雖トモ第二方ハ家屋内部ノ構造替又ハ建増ヲ請求スルヲ得ス

第七条

第二方職務上旅行ノ節ハ北海道庁施行ノ例規ニ照シ要用ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八条

約定期限中第二方ニ於テ若シ病氣怪我或ハ其他ノ事故ニ因リ（下文但書ニ記スル処ヲ除ク）連ニケ月間就職シ能ハサルカ或ハ期限中第二方ニ於テ何時ニ拘ハラズ病氣ニ罹リ或ハ怪我シ其カ為メ（医員貳名公然北海道庁長官ニ呈スル診断書ニ依ル）残期限内中就職シ能ハサルカ又ハ就業ニ甚タ差支ユルコトアル場合ニ於テハ（下文但書ニ記スル処ヲ除ク）北海道庁長官ハ右第二方ノ就業シ能ハサルコト仮令ニケ月ノ期限（或ハ其他ノ期限）ニ及ハサルモ直ニ解約スルノ權アルヘシ而シテ第二方ハ斯ク解約セラレタル上ハ其残期限ニ対シ此約定ニ載セタル給料或ハ其他ノ利益ヲ得ルコト能ハサルモノトス尤モ日本政府ハ日本ヨリ亞米利加合衆国マサチュウセツツ州マルボロー迄ノ旅費トシテ日本銀貨四百五拾円或ハ日

本政府ノ都合ニ依リ同相場ノ紙幣ヲ右第二方ニ給与スヘシ

但シ右様ノ怪我或ハ病氣ハ第二方ノ不注意或ハ等閑ニ因ルコトナク其職務執行ヨリ直接ニ生シ或ハ直接ニ起因シタル場合ニ於テハ（但シ其事實ハ医員貳名ヲシテ之ヲ査定保証セシムルコト尚ホ前文ニ記スル如シ）本条ノ約束ニ依ラスシテ此条約ヲ（日本政府ノ関スルダケハ）遵守履行シ第二方ハ其患後從事し得ルダケノ職務ヲ執行スルヲ要ス

第九条

第二方ハ此約定ヲ遵奉シ三ケ年間満期迄日本政府ニ奉職シ満期後三ケ月中ニ亞米利加合衆国マサチュウセツツ州マルボロー迄ノ旅費トシテ日本銀貨四百五拾円或ハ日本政府ノ都合ニ依リ同相場ノ紙幣ヲ給スヘシ

第十条

若シ第二方不行跡或ハ上文ニ載スル処ノ約定中ノ件ヲ犯シ或ハ意ルトキハ北海道庁長官ハ直ニ此約定ヲ廃止スヘシ然ルトキハ此約定上ノ給料及其他ノ便益ヲ第二方ニ於テ請求スルノ權理ハ此時ニ於テ廢棄スルモノトス

右約定ヲ証スル為メ本書日本文英文各式通ヲ作り上文記載ノ年月日各其名ヲ手記調印スルモノナリ

○工学科第二一年級

月	火	水	木	金	土	日割/時間
代數幾何学 ヘイト氏	同	同	同	同	同	自午前八時三十分 至同九時三十分
重イト氏学	佐藤教授学	重学	史学	重学	史学	自同九時三十分 至同十時三十分
地誌学	器械製図 岩船氏	地誌学	同	器械製図 岩船氏	器械製図 岩船氏	自同十時三十分 至同十一時三十分
器械製図 岩船氏	器械製図 岩船氏	器械製図 岩船氏	器械製図 岩船氏	器械製図 岩船氏	器械製図 岩船氏	自同十一時三十分 至同十二時三十分

○農学科第一一年級

月	火	水	木	日割/時間
無機化学 吉井技師試補	同	同	同	自午前八時三十分 至同九時三十分
人身生理及 健全学 須藤教授	英イト氏語	英イト氏語	英イト氏語	自同九時三十分 至同十時三十分
同	同	同	同	自同十時三十分 至同十一時三十分
英イト氏語	三角術 ヘイト氏	同	同	自同十一時三十分 至同十二時三十分

土 金

同 人身生理

同

月	金	日割/時間
農業実習 南助教	同	自午後二時 至同四時

○工学科第一一年級

月	火	水	木	金	土	日割/時間
無機化学 吉井技師試補	同	同	同	同	同	自午前八時三十分 至同九時三十分
人身生理及 健全学 須藤教授	英イト氏語	英イト氏語	英イト氏語	英イト氏語	同	自午前九時三十分 至同十時三十分
同	同	同	同	同	同	自同十時三十分 至同十一時三十分
英イト氏語	三角術 ヘイト氏	同	同	同	同	自同十一時三十分 至同十二時三十分

予備科課程授業時間割○第壹級

月	火	日割/時間
幾何学 大嶋助教	同	自午前八時三十分 至同九時三十分
和漢学 山崎助教	動物学 須藤教授	自同九時三十分 至同十時三十分
修辭学 中根助教	小物理学 小寺助教	自同十時三十分 至同十一時三十分
読法及訳読 大嶋助教	英イト氏語 佐藤教授	自同十一時三十分 至同十二時三十分

月
文 小寺助教
法 大嶋助教
算 術 小寺助教
讀法及訳読 和漢学 山崎助教

○予備科第參級

土	金	木	水	火	月	日割 時間
英語	讀法及訳読語	英語	讀法及訳読語	大嶋氏	英語	佐瀬助教 讀法及訳読
同	歴史	同	同	同	万国歴史	佐瀬助教
同	代数学	同	同	同	代数学	大嶋助教
和漢学	人身生理学	和漢学	人身生理学	山崎助教	和漢学	全字 須藤教授
至同八時三十分	至同九時三十分	至同十時三十分	至同十一時三十分	至同十二時三十分	至同十三時三十分	至同十四時三十分

○予備科第貳級

月	日割 時間
山 口 氏	自在画法 自午後二時 至同三時三十分

土	金	木	水
須藤教授	動物学	同	同
和漢学	須藤教授	動物学	山崎助教
物理学	修辞学	物理学	修辞学
英語	讀法及訳読語	英語	讀法及訳読語
佐藤教授	大嶋助教	佐藤教授	大嶋助教

火	月	日割 時間
山林 佐藤教授	農家經濟及 動物生理	自午前八時三十分 至同九時三十分
農場管理法	同	自午前九時三十分 至同十時三十分
同	病畜治療法	自午前十一時三十分 至同十二時三十分
同	牧畜論	自午前十二時三十分 至同十三時三十分

農芸伝習科課程授業時間割表
第二年第二期

土	金	木	水	火	月
英語	地理学	英語	英語	中根助教	中根助教
同	同	同	同	同	久嶋氏
同	同	同	同	同	和漢学 山崎助教
算術	算術	算術	算術	算術	大嶋助教

○予備科第四級

土	金	木	水	火
英語	文法	英語	文法	佐瀬助教
同	同	同	同	同
地理及地文	讀法及訳読	地理及地文	讀法及訳読	中根助教
讀法及訳読	和漢学	讀法及訳読	和漢学	小寺助教

土	金	木	水
同			
動物生理	同	農場管理法	同
動物生理	同	同	同
蹄鉄法	同	同	同
農用測量術	同	同	同
佐瀬助教	同	同	同

第一年第二期

日割	時間	土	金	木	水	火	月
自午後十二時三十分至同一時三十分	化学原理	化学原理	化学原理	化学原理	化学原理	化学原理	化学原理
自午後一時三十分至同二時三十分	農用植物生理	農用植物生理	農用植物生理	農用植物生理	農用植物生理	農用植物生理	農用植物生理
自午後二時三十分至同三時三十分	排水及開墾法	排水及開墾法	排水及開墾法	排水及開墾法	排水及開墾法	排水及開墾法	排水及開墾法
自午後三時三十分至同四時三十分	普通及特用植物耕作法	普通及特用植物耕作法	普通及特用植物耕作法	普通及特用植物耕作法	普通及特用植物耕作法	普通及特用植物耕作法	普通及特用植物耕作法

〔農八七六〕

七〇四 学田地下付上請(二月一九日仕出)

学第五四号

学田地長官へ御上請按

石狩国雨龍郡字オンシリカ平野ニ於テ別紙略図朱引内地積凡ソ三百
万坪本校学田用地トシテ御下付相成候様致度此段上請候也

札幌農学校校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

明治廿一年十一月

北海道庁長官永山武四郎殿代理

北海道庁理事官堀基殿

〔注〕 別紙略図を略す。

〔農三六二〕

七〇五 教授定員に關し官制改正の儀上請

札幌農学校官制改正ノ義上請

明治十九年十二月廿八日勅令第八十四号札幌農学校官制第六条ニ於テ教授ノ定員二名ト制限相成候処元來該校ノ学科課程ハ殖民地ニ必須ノモノヲ撰ミ候為メ特別ノ課程モ不少務テ北海道実地ノ応用ヲ目的トナシ向後学科課程ノ組織ヲ改メ殖民地ニ必要ナル各種ノ人材ヲ養成シ其経費ノ如キハ可成節約ヲ旨トシ雇外外国教師ノ如キハ漸次全廃ノ計畫ニ有之候処右各種ノ生徒授業ノ儀ハ教授助教訓導ニ於テ負担スルモノニ候ヘ共訓導ハ専ラ実業ヲ執リ助教ハ主トシテ普通学科ニ從事シ教授ノ職掌ヲ助クルノ違甚タ少ナク故ニ本科専門ノ学科ハ概シテ教授ノ担当ニ歸シ定員二人ニテハ何分授業上不完全ニシテ差支不少候ニ付官制第六條御改正相成候様致度別紙勅令案并札幌農学校官制校則相添此段上請候也

明治二十一年十二月十五日

北海道庁長官永山武四郎

印

内閣総理大臣伯爵黒田清隆殿

〔別紙〕

勅令案

朕札幌農学校官制^{〔加筆〕}中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十二年一月十九日^{〔朱書〕}内閣総理大臣伯爵黒田清隆

勅令第〔四〕号

明治十九年^{十二}月^{廿八}日勅令第八十四号札幌農学校官制中左ノ通改正ス

第六条 教授八人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

〔注〕 札幌農学校官制及び校則を略す。

〔公文類聚一三二二九〕

〔参考〕

札幌農学校官制改正ノ儀^{〔注〕}上請

明治十九年^{十二月}廿八日勅令第八十四号札幌農学校官制第六条ニ於テ教授ノ定員ヲ二人ト制限相成候処元來該校ノ学科課程ハ殖民地ニ必須ノモノヲ撰ミ候為メ其数夥多ニシテ彼ノ單純ナル一ノ数理或ハ哲学ヲ教授スル如キト大ニ其趣ヲ異ニシ試ニ其重要ナル学科ヲ列叙スレハ農学、植物学、動物学、化学、数学、物理学、獣医学、経済学、測量学、等ノ数科ニ有之加フルニ官制第一条ノ精神ニ基キ明治二十年三月校則ヲ改正シ更ニ工学科ヲ置キ土木工学ヲ教授スル事ト相成候

以來之と付帶スル高尚ノ数学重学ノ如キモ之カ教授ヲ要シ且ツ同時ニ北海道実地ノ応用ヲ謀リ農芸伝習科ヲ置キ各郡農家ノ子弟ヲ養成スルノ制ヲ設ケ候ニ付益多数ノ専門教官ヲ要スルニ至リ候右各種ノ生徒授業ノ義ハ教授助教訓導ニ於テ負担スルモノニ候得共訓導ハ専ラ実業ヲ執リ助教ハ主トシテ予備科生徒ノ董陶ニ従事シ且教授ノ職掌ヲ助クルノ邊甚タ少ナリ故ヘ本科専門ノ学科ハ専ラ教授ノ担当スベキモノナレトモ定員二人ニテハ何分授業上不完全ニシテ差支不勘候ニ付テハ官制第六条左按ノ通御改正相成様仕度尤右御裁可無之ニ於テハ自然外国教師ヲ増員授業為致候ヨリ外無之然ルニ備外國人ノ如キ俸給多額ヲ供セサレハ傭聘ニ応セス且傭入ノ都度在外國公使ノ紹介等種々ノ手数ヲ煩候ノミナラス往復ノ旅費等失費モ鮮少ニ無之候得共良教師ヲ内國ノ卒業学士ニ得ルコト難キヨリ止ヲ得ス本校創立以來屢教師ヲ米國ニ聘雇シ雇教師ヲ置キ夫々授業為致候得共右雇教師ニ於テモ受持課業数多ニシテ行届兼候得トモ経費ノ都合ニ因リ増員難相成ニ付専門得意ノ学科ニアラサルモ押テ受持為致置候儀ニテ學術ノ進捗授業ノ便益上ニ於テモ策ノ得タルモノニ無之万止ヲ得サル便法ニ出候義ニ有之然ルニ本校創立以來十余年ヲ經過シ此間卒業生ヲ出セルコト九十余名ニシテ右卒業生中学力優等ナルモノ現今欧米ニ留学専門ノ學術ヲ研究致居候モノ数名有之追々帰朝該校教官ニ就職ノ日モ不遠儀ニ候得共教授ノ人員二名ニ制限相成居候ニ付任

用ノ途無之旁官制ノ裁可ヲ仰候儀ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ御裁可相成度御参考ノ為メ札幌農学校官制及校則并教授受持課業割相添此段上請候也

明治二十一年 月 日

〔注〕 本上請案は幹事佐藤昌介による草案であり、差出は「長官」、宛先は「内閣総理大臣」となっているが、抹消されている。

〔農三四九〕

七〇六 宮部金吾留学中の状況報告及び帰国旅程に付願出等の件

当地留学ノ成跡及ヒ現況ハ其時々札幌農学校々々長或ハ校長代理マテ報道致置候如ク最初一ケ年間ハ専ラ当大学ニ於テ行ハル、植物学諸科ノ教授法ヲ取調べ就中植物生理学ト寄生黴菌学トハ農業改良上ニ頗ル必要ナル学科ナレハ其研究ニハ特ニ多量ノ時間ヲ消費申候、第二期ニハ引続キ右ノ兩科ヲ修メ傍ラ英領バミューダ島ノ名産ナル玉葱ニ寄生スル一種ノ有害黴菌ノ發生ヲ調査シ農事上並ニ學術上ニ補益アル事項ヲ発見致候ヘハ一ノ論文ニ綴リ英國ヲツクスフオードニ於テ出版ノ都合ニ致置候

本年ハ取調ヲ要スヘキ件数多有之候ヘ共時間ニ限アレハ先ツ当地ニ

アラザレハ決シテ取調得ベカラザルモノシテ帰朝後ハ直ニ日本植物学ニ多少ノ裨益ヲアタフヘキ事項ヲ択フコトニ決シ教授フアロー氏ニ相談ノ上去ル十月ヨリ日本産下等隠花植物(即チ海藻、菌茸ノ類)並ニ千島植物ノ取調及ヒ其成跡ノ編纂ニ着手致候兩件トモ明年四月下旬迄ニハ終結ノ運ニ御坐候

当大学ニハ故ドクトル、グレー氏ノ尽力ニ依リ蒐集シタル一大植物標品室アリテ其内ニハ水師提督ベルリ及ヒロツジャノ東洋遠征ノ際宗谷函館下田琉球小笠原島等ニテ採集シタル植物標品ヲモ悉皆保存シ有之加フルニ英人、蘭人、露人等ノ我國ニ於テ集タル標品中グレイ氏ヘ寄送シタルモノモ頗ル多ク我植物ヲ調フルニハ露國彼得堡及ヒ英國キユーノ標品室ヲ除クノ外ハ当校ニ勝ルベキ場所ハ無之コトト存候

然レトモ千島植物ニ至ツテハ当校ニ於テ未タ一ノ標品アルヲ見ス抑モ該島ノ植物中今日書籍上ニテ識リ得ラル、モノハ僅ニ数十種ニ止ルノミニシテ學術上未タ荒蕪ノ地ト云テ可ナルヘキモノト被存候然ニ去ル明治十七年小生幸ニ志古丹並ニ択捉ニ渡ルヲ得其草木凡二百五十種余ヲ採集シタレハ聊カ該島ノ天産ヲ窺フニ足ルヘシト信候是即チ小生ノ今日取調居候者ニ有之候先頃露國彼得堡植物園ノ教授マキシモウキツ氏小生ノ此挙ヲ賛成シ該園附屬ノ標品室ニ蓄藏スルトコロノ千島産植物(未タ書籍ニ出サルモノ多シ)凡百種ノ目錄ヲ寄

贈シタリ此等ハ皆露人ノ得撫島以北ノ諸島ニ於テ採集シタルモノニシテ小生カ採集シタル採捉産ノモノト其種類ヲ異ニスルコト最モ著明ナリ該目錄ニ依レハ千島国北東部ノ草木ハ北米アラスカ及ヒアルシアン群島ノモノニ類シ南西部即チ採捉志古丹（国後か）ハ根室地方及ヒ樺太南部ト植物帶ヲ一ツニシ往々九州地方ノ高山ニ生スル植物ヲモ其内ニ見ルコトアリ以テ採捉ノ牧畜並ニ燕麦根物等ノ耕作ニ適スルヲ証スルニ足ルヘント存候

当校ニ於テ研究致候事項中北海道天産並ニ其殖産ニ関スルモノハ帰朝後悉細開陳可仕候

頃日佐藤校長代理ヨリ明年九月マテニ帰朝可致旨報道有之一応承諾仕候

当校之分ハ明年五月中旬マテニ其取調ヲ一ト通り終ルヘキ連ニ致置候ヘハ帰途凡三ヶ月間ノ有余ヲ以テ当大学ニ於テ取調兼候処ヲ補フ為メ又タ他日教授上並ニ実地研究上ノ参考ニ備フル為メ左ニ記載候場所ヘ巡視被仰付度奉懇願候米国ニテハアムハルスト、ニューヘブン、紐育、及ヒ華盛頓ノ農事試験場欧州ニテハ先ツ英国キニート露国彼得堡ノ植物園ニ二三週間ツ、滞在之上北海道植物ニ付疑問ノアル点ヲ取調ヘ順路伯林、ブラツセル巴里等ニ於テ四五日間ツ、調査ノ上仏国馬耳塞ヨリ直ニ帰朝ノ途ニ付キ度切望ノ至ニ御坐候
右ノ件々御聞届御辭令被下度謹テ奉懇願候也

在米国ハーバード大学

明治廿一年十二月廿二日

北海道庁留學生宮部金吾[㊦]

北海道庁長官永山武一郎殿

〔農三九八〕

七〇七 北海道殖民地ニ農学校を必要とするの意見（佐藤昌介

草稿^{〔註〕}（二一年）

北海道殖民地ニ農学校ヲ必要トスルノ意見

今ヤ本邦社会ノ大勢日々ニ内治外交ノ繁雜ヲ増スニ至リ殊ニ其急務ヲ見ルモノハ財用ノ充足是ナリ雖然財用遽カニ充足スルコト能ハズ必ズヤ先ツ実利ヲ開發シ富源ヲ涵養セザル可ラズ蓋シ実利富源ノ程度如何ヲ察セズシテ急進財用ノ充足ヲ計ラントスルノ極ハ遂ニ一転シテ信用ノ濫用トナリ再転シテ倒産ノ現象ト為ル国家理財ノ大計ヲ処スルニ於テ豈ニ慎重ヲ加ヘズシテ可ナランヤ

本邦素ヨリ富源ニ乏シカラズ蓋シ邦人ノ機敏ナル製作工芸以テ価値ヲ作ルベシ通商貿易以テ富ヲ世界ノ市場ニ於テ求ムベシ雖然本邦ノ開明ハ未ダ幼稚ナリ維新二十年來ノ教育ハ邦人ノ技倆ヲ以テ輸贏ヲ外人ト争ハシムルニ足ラズ故ニ今日ノ得策ハ邦人実力ノ程度ニ照ラシ本邦固有ノ富源ヲ開發シ以テ其生産ヲ増加セシムルニ在リトス惟フニ本邦多數人民ノ実力ハ未ダ製作工芸若クハ通商貿易ヲ以テ本邦

ノ財用ヲ充足セシムルコト能ハズ雖然直接消費ノ生産若クハ製造ノ原料ヲ産出スルニ於テ最モ適當ナルモノトス語ヲ易エテ之ヲ解説スレバ本邦未ダ農産国タリ製造国タラズ本邦開明ノ進歩駸々乎トシテ止ムコトナクモ社会ノ組織ハ容易ニ之ヲ變更スルコト能ハズ思フニ二十世紀ノ過半ヲ經過スルニ非ザレバ本邦ハ未ダ製作国トシテ世界國際家族ノ社会ニ現出スルコト能ハザル可シ

夫レ然リ本邦ニシテ農産国タリ邦人ノ多数ニ依テ衣食シ本邦ノ財用之ニ依テ其過半ヲ支辨スルモノタラバ宜シク農業ヲ改良シ其生産ヲ増加シ以テ益々国家ノ富実ヲ進捗スルノ策ヲ講ゼザル可ラズ或ハ実験ノ指導ニ由リ或ハ学理ノ光明ヲ俟リ着々歩々以テ本邦古來墨守ノ古法旧慣ヲ撤去シ農業ノ実利社会ヲ一変シ勉メテ殖産興業ノ実力ヲ振興セズンバ假令無形ノ開化ハ日ニ進ミ月ニ新タナルモ虚影ノ開明ニシテ空中架楼ノ憾ナキ能ハズ故ニ權衡準ノ理勢ヲ審カニシ恰カモ影ノ形ニ随フガ如ク虚実ノ事業相併行スルヲ要スルモノナリ虚心平氣以テ本邦ノ実業社会就中農業社会ヲ觀察スルニ或ハ喜ブベク或ハ歎ズベキノ景況アリ其喜ブベキモノハ何ゾヤ曰ク農業社会ノ復古是ナリ我政府維新ノ革命ニ次クニ封建制度ノ廃止ヲ以テス封建制度ノ廃止ハ農民ニ許スニ地主權ヲ以テセリ鎌倉置幕以來人権ヲ失ヒ土地ヲ耕作スルモ所有ノ權利ヲ有セズ纔ニ所持ノ權利ニ依リ尺土寸地ヲ耕耘シ粒々辛苦草莽ニ埋没セルモノハ一朝ニシテ維新ノ大令

ニ際セシ所持ノ權ヲ變ジテ所有ノ權ト為シ財産ニ附帶スルノ權利義務ヲ併有スルコトヲ得タルハ豈ニ明治聖代ノ賜物ニアラズシテ何ゾヤ故ニ今日ノ農業社会財産ノ資格ハ往古兵農一致ノ時代ト其趣ヲ同ウスルモノニシテ所謂農業社会ノ復古ト謂フモ不可ナカルベシ

雖然目ヲ転ジテ其經濟ノ程度ヲ察スレバ本邦ノ農民ナルモノハ稼穡耕耨纔ニ生命ヲ繫グト云フニ過ギズ今ヤ他ノ職業社会ハ日新ノ開明ニ伴フテ生計ノ度ヲ高フシ文明ノ快樂ヲ享クルト雖トモ農業社会ニ於テハ終身田圃ノ間ニ齟齬シ田圃以外ニ文明世界アルコトヲ知ラズ祖先伝來ノ旧法ニ拠リテ春耕夏鋤秋收冬藏ノ外他ヲ顧ミルノ暇ナシ實ニ歎ズベキノ至リナリ其然ル所以ノモノハ他ナシ衣食ニ余裕ナキヲ以テナリ衣食ニ余裕ナキハ農業其法ヲ得ザルニ因ルナリ豈ニ農業改良ノ方策ヲ講究シ本邦多数人民即チ農業社会ノ幸福ヲ進捗セズンテ可ナランヤ

之ヲ史ニ按ズルニ文明諸國ノ農業ト雖トモ其今日ノ改良ヲ來タセルハ大ニ理由アリテ存ズルナリ独逸聯邦ノ農業ノ如キハ紀元九百年代查斯大王ノ時世ヨリ十九世紀ノ初メニ至ルマデハ所謂三圃農業ナルモノヲ墨守シ恬トシテ之ヲ改良スルノ意向ナシ蓋シ三圃農業ノ制タルヤ毎歲耕土三分ノ一ヲ挙ゲテ休田トナシ其耕鋤スルモノハ三分ノ二ニ過ギズ故ニ全国生産力ノ休養其度ニ過ギ富実ノ増進ヲ図ラントスルモ之ヲ為スコト難シ加フルニ村閭ノ習慣共同ノ權利等種々ノ檢

東アリテ生産力ヲ自由ニ開發スルコト能ハズ為メニ農業史上千年ノ長キ間封建制度ノ余弊ヲ除クノ外概シテ記載スベキノ事ナシ雖然十八世紀ノ終リニ至リ国家多事国用多端富源ヲ涵養スルノ急ナルニ當リ普国ノ名相「スタイン」「ハアデンボルグ」ノ諸氏首トシテ農政制度ノ改革ヲ議シ千八百七年ノ大令籍土ノ制ヲ解キ務メテ農業ノ実力ヲ増進スルノ策ヲ講ジ又當時ノ学士「テーヤル」氏ノ如キハ実験ヲ重ネ學理ヲ講ジ以テ農業ヲシテ學理的ノ職業タラシメタリ蓋シ該氏ノ「メイグリン」府ニ於テ創起セル一ノ農学校ハ爾後欧米諸国ニ於テ設立シタル数百農学校ノ大母ト称スルモ敢テ不可ナカルベシ独逸諸国今日農業ノ隆盛ヲ來シ国家ノ富実ヲ致セシモノハ大ニ素アルニ非ズシテ何ゾヤ

本邦ハ古來農ヲ以テ国ヲ建テ農ヲ以テ国ノ基ト為ス徳川氏ノ治世文人學士ヲ輩出スルニ當リ特ニ農業ヲ講セル有為ノ士ニ乏シカラズ宮崎安貞貝原篤信大藏永常佐藤信淵ノ如キハ其人ナリ本邦農業ノ術ニ於テ実ニ粗ナリトセズ雖然今日ノ日本ハ昔日ノ日本ニアラズ其農業ノ如キモ欧米學術進歩ノ効果ヲ利用シ「リイベヒ」氏ノ農芸原則論「チューネン」氏ノ孤立条理論「ロツシヤル」氏ノ集疎論ノ如キ古人未言ノ新論農業社会ヲ益スベキモノ尠シトセズ況ンヤ英米學士ノ実利ニ曉キ器械ニ牛馬ニ學理ヲ応用シ造化ノ妙法ヲ啓聞シ以テ農業ノ天地ヲ殆ント豹変セルモノアリ噫我國ノ農業モ國際ノ刺衝多キ今日

財用ノ欠乏多キ當時ニ於テ豈ニ其組織ニ技芸ニ制度ニ經濟ニ取彼長補我短ノ策ヲ利用セズシテ可ナランヤ

雖然旧慣遺カニ破リ難シ古法俄カニ改メ易カラズ夜ヲ昼ニ繼グノ急策ヲ施サント欲セバ理財ノ變動社会ノ攪乱ヲ來タシ国家ノ大計ニ於テ決シテ策ノ得タルモノト謂フ可カラズ然ラバ乃チ泰西ノ農業法ヲ直チニ利用シテ本邦農業ノ進歩ヲ來タスノ余地ナキカ曰ク大余地ノ在ルアリ北海道ノ殖民地是ナリ

抑モ北海道ハ本邦ノ一大富源タルハ明治維新以來漸ヤク邦人ノ頭腦ニ染入シ來タリ今ヤ益々之ヲ実認セント欲ス蓋シ史上ニ於テ之ヲ論ズルトキハ北海道殖民ノ事業ハ二期ニ區別スルヲ得ベシ往時徳川氏ノ治世ニ於テハ蝦夷ヲ以テ辺疆トナシ単ニ魯国ニ備フルヲ以テ管島ノ主義トナセリ故ニ明治維新蝦夷開拓ヲ議スルニ當リ當時ノ人士モ亦北門鎖鑰ノ四字ヲ以テ蝦夷開拓慣用ノ語トナセリ恰カモ羅馬人ガ辺城ヲ以テ欧夷ニ備フルカ為メ其人種ヲ殖民セルモノト同一ノ形況ニシテ彼「フヘニシヤ」希臘ノ人民ガ通商貿易以テ利ヲ得ンガ為メ或ハ小亞細亞ニ或ハ地中海岸ニ殖民セルモノト其軌ヲ同ウセズ雖然国郡ヲ經画シ官庁ヲ設置シ蝦夷内部ノ景況世人ノ認識スル処ト為リ又千島樺太ノ交換一時外交ノ紛ヲ解キ徐ロニ拓地殖民ノ事業ヲ考究スルニ當リ北海道ノ殖民ハ北門鎖鑰ノ主義即チ辺備殖民ノ局面ヲ以テノミ其成效ヲ拳グル能ハズ必ズヤ富源ノ開發実利ノ收拾即チ經濟

殖民ノ主義ヲ以テ拓地殖民ノ正則トナシ以テ実効ヲ奏スルヲ期スルニ至レリ蓋シ利ノ在ル処ハ業起リ利無キ処ハ業興ラズ政略權謀ハ時アリテ其用ヲ為スコトアリト雖トモ実利ノ誘導スル所ニ非ズンバ到底事業ノ興起ヲ望ム能ハザルハ經濟ノ原則ナリ故ニ北地開拓ノ針路ハ益々其富源開發ノ点ニ集合セリ將來モ亦此針路ヲ取リテ進歩スルハ疑ヲ容レザルナリ是即チ北海道殖民ノ第二期ニシテ北門鎖鑰ノ語ヲ軋ジテ富源開發ト為スハ蓋シ理勢ノ然ラシムル処史上ノ進化ト謂シ可キナリ

夫レ然リ旧開拓使ガ全道殖民ノ大業ヲ創設スルニ當リ務メテ北地富源ノ開發ヲ以テ施政ノ要トナセリ雖然本邦絶代ノ鴻業固ヨリ僅々十年ノ星霜ヲ以テ其成功ヲ期スベカラズ世人ガ使序ニ望ムベキモノハ拓地殖民上緊要ナル原素ノ準備ニアリテ其事業ノ成功ハ須ラク多年ノ後ヲ俟タザル可ラザルモノトス思フニ開拓使ガ當該準備ノ事業ハ頗ブル務メタルモノト謂ハザルヲ得ズ蓋シ札幌農學校設立ノ如キモ其事業ノ一ナリトス

当初該校ノ設立アルヤ其目的トスル処首トシテ殖民地ノ官衙ニ適任ナル人材ヲ養成スルニ在リ故ニ農學校ハ殖民地文官學校ノ制度ト称スルモ不可ナシ而シテ殖民地文官學校ヲシテ農學校タラシメンハ拓地殖民ノ事業興農ヲ以テ其骨髓トナスヲ以テナリ當時該校ノ召募ニ応ジ入校セシ学生ハ卒業ノ後北海道ノ移民ト為リ官衙ノ採用ニ応ジ

入テハ專意拓地殖民ノ事業ヲ翼賛シ出テハ力役開田耕土之稼穡ニ從事シ屍ヲ北見ノ曠野ニ曝ラシ骨ヲ挾捉ノ絶島ニ埋ムルモ敢テ遺憾トセズ況ンヤ卒業後五ケ年ノ奔命ニ於テヤ喜ンデ之ヲ奉ジ他アルヲ知ラズ當時学生ノ氣風ハ實ニ羨望ニ堪エザル所ナリキ

然リ而シテ多年螢雪ノ苦學其功成リ明治十三年ノ際業ヲ卒ヘ稍ヤク官衙ノ採用ニ応ジカヲ北地ニ致スノ時機到来セルヲ喜ビシニ間モナク政府令スルニ廢使置県ヲ以テス爰ニ於テカ北海道ノ事業施政ハ數官衙ノ間ニ於テ処スルコト、ナリ農學校ノ如キモ農商務省ノ管理ニ歸スト雖トモ該校出身ノモノハ其地位ヲ北海道ニ得ルノ難キト貨費ノ制自由ヲ与フルニ因リ終ニ知ラズ識ラズ北海道ヲ去ルノ已ムヲ得ザルニ至レリ當時学生ノ志氣敢テ挫折シタルニアラズ官衙施政ノ事情大ニ之ヲ然ラシメタルモノアリト謂テ可ナラン歟然ルニ政府大ニ見ル所アリ明治十九年廢置置庁ノ令ヲ布キ再ビ北海道拓地殖民ノ事業ヲシテ单独官衙ノ総判ニ歸セシム是北海道殖民史上記念スベキノ一大事實ナリトス然リ而シテ今ヤ北海道庁ハ銳意シテ拓地殖民ノ実効ヲ挙グルヲ期スルニ當リ學術技芸ニ達セル人材ヲ要スルコト益々急ニ益々多シ思フニ殖民地ノ官衙ナルモノハ地方尋常ノ官衙ト趣ヲ異ニシ執務ノ緩急事業ノ前後ヲ察シ務メテ繁ヲ去リ簡ニ就キ或ハ農商ニ或ハ山林ニ或ハ地理ニ或ハ水産ニ或ハ土木ニ特ニ殖民地ニ緊切ナル事業ヲ拡張シ富源ノ開發實利ノ收拾ヲ以テ官衙

施政ノ基本トナシ又地方ニ関スル行政ノ如キモ内地ト其制ヲ異ニシ
 殖民地特別ノ制ヲ設ケ以テ開墾起業ノ実効ヲ擧ゲザル可ラズ故ニ道
 庁ノ手足ト為リ奔命奉行ノ人材ヲ使用スルハ是レ北海道殖民ノ施政
 上実ニ枢要ナルコトトス雖然急ニ人材ヲ要スルモ人材急ニ得ベカラ
 ズ固ヨリ養成要素アルニ非ザレバ其用ヲ成サズ是ヲ以テ道庁一昨十九
 年十二月札幌農学校官制ノ発布ニ基キ校則ヲ改正シ首トシテ学生養
 成ノ目的ヲ定メ学業優等ノ者ヲ拔擢シ之ニ給スルニ学資ヲ以テシ農
 工ノ学科ヲ研究セシメ道庁ノ採用ニ供シ以テ拓地殖民ノ事業ニ当ラ
 シメントス又全道農家ノ子弟ヲ召集シ泰西ノ農法ヲ伝習セシメ二年
 業ヲ卒ヘルノ後ハ各郡ニ散布シ处在地方農家ノ模範トナリ農業社会
 ニ新原素ヲ入レ以テ北地農業ノ改進ヲ期セントス又所屬農園ノ事業
 ヲ擴張シ泰西学理ノ応用ト実業的ノ管理ヲ折衷取捨シ之ヲ北海道ノ
 農業ニ施シテ実利実益ノアル点ヲ表示スルヲ務ム是道庁教育ノ制度
 ヲ利用シ以テ拓地殖民ノ事業ヲ翼賛セシムルニアリ今ヤ益々其効果
 ヲ見ルノ期ニ際会セルハ国家ノ為メニ實ニ賀スベキノ至リナリ
 農学校設立以來纔カニ十余年卒業生ヲ出セルコト未ダ甚タ多シトセ
 ズ然リト雖トモ今日道庁ニ奉仕スルモノ三十余名ノ多キニ至レリ或
 ハ命ヲ奉ジテ海外ニ出テ製作工業水産ノ事業ヲ調査スルモノアリ或
 ハ深ク北海道ノ内部ニ入り深山幽谷ヲ跋渉シテ殖民地ノ撰定ニ従事
 スルモノアリ或ハ任ヲ郡長ニ受ケ親シク地方牧民ノ事務ニ当ルモノ

アリ或ハ職ヲ農場ノ管理ニ奉シ農業ノ収支ヲ審カニシ北海道農業ノ
 標準ヲ定メント実験スルモノアリ之ヲ要スルニ農学校ノ卒業生ハ未
 タ少数ニシテ今日ダモ道庁ノ需用ニ応ズルニ足ラザルヲ恐ル益々人
 材ヲ養成シテ其需用ニ供スルハ今日該校学政ノ急務ナリトス

蓋シ北海全道地方ノ行政ハ道庁長官ノ命ヲ奉シテ二十二個ノ郡区衙
 ニ於テ之ヲ処理ス札幌農学校卒業生ハ地方郡区官タルニハ最モ適任
 ナルモノト信ズ何ントナレバ地方ノ事務ハ亦殖産興業ヲ以テ其主要
 トナスモノナレバナリ然ルニ他日殖民事業ノ擴張スルニ際会セバ全
 道ノ闊キ人口ヲ容ル、ノ余地多キ郡区衙ノ数必ズシモ二十二個ニ止
 マラザルベシ然ルトキハ地方モ亦益々農学校ノ卒業生ヲ需用スルコ
 ト多カルベシ

之ニ加フルニ北海道ニ於テ一種ノ兵農移民者アリ屯田兵是ナリ該兵
 ハ兵備ト開拓ノ二業ヲ兼ね其成績大ニ見ルベキモノアリ然ルニ之ヲ
 統御スルノ士官タルモノハ独リ操兵ノ術ノミナラズ又拓地ノ業ニ通
 曉スルヲ要ス札幌農学校ハ創立以來兵学ノ一科ヲ設ケテ之ヲ教授ス
 故ニ其卒業生タルモノハ兵農ノ二事ヲ兼スルニ於テ最モ適當ナル者
 トス他日政府若シ該兵ノ規模ヲ伸張スルニ際シ該校卒業生ヲ以テ其
 士官ニ採用スルノ挙アラバ卒業生ノ需用ハマタ益々多キヲ加ヘん果
 シテ然ラバ農学校ハ当初ノ文官学校タルノミナラズ殖民地ニ必要ナ
 ル文武官ヲ養成スルノ学校タル可シ農学校ノ用モ亦大ナリト謂ハザ

ル可ケンヤ

夫レ特別ノ事業ニハ特別ノ教育ヲ要ス分業独リ職業社会ニ於テノミ
之ヲ施行スルモノニアラズ輓近學術ノ進歩ト共ニ益々學術社会ニモ
亦分業ノ普及ヲ見ル英國ノ如キハ普通農学校ノ外ニ殖民学校ナルモ
ノヲ設立シ殖民者ニ適切ナル教育ヲ施シ以テ殖民事業ノ拡張ヲ図ル
アリ是レ蓋シ各種ノ學術技芸ト共ニ殖民地ノ地理風土産業等ヲ親シ
ク研究セシメ殖民者タルノ資格ヲ具備セシムルハ其事業ノ成功上最
モ緊要ナルモノナレバナリ札幌農学校学生ノ如キハ在學多年親シク
北海道ノ地理風土ヲ觀察スルノ便宜ヲ得且其教育ハ殖民地ノ事業ニ
最モ適切ナル学科ニ就キ之ヲ受クルヲ以テ北海道ノ殖民者又殖民地
ノ官吏タルニハ最モ完全ナル資格ヲ具備スルモノト謂フベシ

然リ而シテ教育ノ利益ハ之ヲ永遠ニ期スベクシテ之ヲ目前ニ見ルベ
カラザルモノアリ是ヲ以テ世人或ハ教育ノ制度ヲ不急視スルモノノ往
々之ナシトセズ雖然之ヲ史ニ徵スルニ米國殖民地ノ如キハ決シテ教
育ノ制度ヲ輕視セズ馬^{マサチューセツ}州ノ森林榛々未ダ野獸ノ巢窟タリ波村^{ボースト}ノ
屋舎点々未ダ寒農ノ陋居タルニ過ギザリシモ地ヲ「カンブリッジ」
ノ野ニ相シ兀出建築セルモノハ是レ「ハアバード」大学ノ基礎タ
ルヲ知ル蓋シ新英蘭ノ人民ガ其教育其富実他ノ諸州ニ冠タルモノハ
一朝一夕ノ事ニアラズ遠ク其原因ヲ殖民創業ノ間ニ胚胎セルモノト
謂ツテ可ナリ古人曰ク衣食足りテ礼讓ヲ知ルト當時ノ社会ハ教育足

リテ衣食裕カナリ學術技芸ニ関スル教育ノ如キハ殖民地ニ於テ一日
モ之ヲ忽諸ニ付スベカラザルハ理ノ最モ賭易キモノナリ

嗚呼北海道開拓セザルベカラズ本邦ノ富源涵養セザルベカラザルコ
ト久シ數千里ノ沃野モ之ヲ拓カザレバ荒野ナリ之ヲ拓ケバ美田ナ
リ石狩ノ平原ハ耕夫ノ犁ヲ入レ十勝ノ森林ハ樵艸ノ斧ヲ待チ千島ノ
河海ハ漁父ノ船ヲ向ヒ以テ天然ノ富ヲ人用ニ供セントス思フニ北海
道ノ開拓ハ今日実ニ其時期ナリト社会ノ理勢ト政治ノ進路ハ共ニ
此時期ヲ誘喚セリ蓋シ食物ノ生産ト人口ノ繁殖トハ増減其比例ヲ同
ウセズ人口益々繁殖スルモ食物ノ生産是ニ伴フ能ハザルハ社会經濟
ノ原則ナリ本邦ノ人口年ヲ逐フテ増加ス荒土ヲ拓キテ生活必需ノ原
料ヲ產出スルニ非ザレバ能ク其人命ヲ維持スルコト能ハザルベシ余
剩ノ人口ヲ外ニ移シ人口食料不平均ノ權衡ヲ保ツヲ得ベシト雖トモ
是不得止ノ窮策ニシテ未ダ拓クベキノ曠原平野アリ未ダ興スベキノ
製産工業アルノ日ニ於テハ外国移住ノ可ナルヲ知ラザルナリ宜シク
人口ヲ北地ニ移シ造化天然ノ利源ヲ開発セシムベシ今日已ニ人口繁
殖ノ刺衝ハ北地ノ開拓ヲ促カス是即チ社会ノ理勢ヨリ來ル開拓ノ時
期到來セルナリ更ニ目ヲ轉ジテ政治ノ進路ヲ見レバ内治ノ改良モ國
權ノ伸張モ富ノ力以テ之ヲ行フヲ得ベシ雖然富容易ニ致シガタシ況
ンヤ当今社会事物ノ繁雜ナル曩日鎖港孤立ノ時ト同ジカラズ殊ニ射
利ノ爭技壇上ニ於テハ營業ノ自由ト運輸ノ利便開通スルニ随ヒ一事

一業ノ利ヲ収ムベキモノアレバ互ニ資財ヲ投ジテ其利ヲ得ルヲ期スルノ時ニ於テヲヤ故ニ金利ノ低落スルハ恰カモ水ノ低キニ向フガ如シ是ヲ以テ新開ノ邦土ニシテ事業多ク資本乏シキ処アレバ招カザルモ争フテ之ニ資本ヲ投ジ有無相通ジ利賃相納ムルニ至ルハ之ヲ欧米ノ殖民史ニ徴シテ知ルヲ得ベシ今ヤ我北海道ノ形勢殆ント之ニ類似スルノ時機ニ際会セリ豈ニ此理勢ニ応ジ天賦ノ富ヲ開発シ以テ内治ノ改良國權ノ伸張ニ対スル処ナクシテ可ナランヤ雖然北海ノ富源學術技芸ノ利器ヲ仮ラズンバ智力競争ノ今日充分之ヲ開発スルコト難カルベシ故ニ内治外交國費不貲ナルモ宜シク教育ノ制度ヲ伸張シ開物利用ノ基礎ヲ鞏固ニセザル可ラズ昔時普漏生ノ拿破崙ニ窺メラルハヤ兵破レ地削ラレ危急存亡ノ時ニ当リ國ヲ富マサント欲スルモ財ニ乏シク兵ヲ強ウセント欲スルモ人少ナシ狂瀾既ニ倒レントシテ之ヲ回エスノ力ナク今ヤ普漏生ノ國命ハ一条ノ縷ヲ以テ之ヲ繫クヨリモ猶危シ此時ニ当リ名士群議終ニ大学ヲ起シ士氣ヲ養成スルヲ以テ國家ノ最大急務ト為セリ今普國ノ独逸ヲ一統シ聖羅馬帝國ノ鴻業ヲ再興シ終ニ欧州列國ノ盟主タルニ至ルモ豈伯林大学教育ノ贊助ナシト謂ハサル可ケンヤ又之ヲ米史ニ按ズルニ廢奴ノ論議四出南北ノ政黨相軋轢シ國亂潰裂砲煙彈雨ノ間ニ於テ當時ノ名士ガ國會ニ於テ泰然議決セルモノハ果シテ何ゾヤ即チ各州ニ農学校ヲ設立スルノ議案是ナリ乱ニ居テ治ヲ忘レズ殖産興業ノ基本ヲ定メタル諸士ノ卓見

想フ可シ今日米國四十余州ニ於テ農芸ノ技術ヲ研究シ拓地殖民ニ利スル所アルハ全ク當時ノ名士ノ賜物ト謂ツ可シ今マタ米國各州ニ農事試驗場ヲ設立スルノ法令アリテ農学校卒業ノ學士管理ノ任ニ當ルモノ多シ往時國家多事ノ際ニ當リ農学校ヲ設立セルノ効果益々世ニ現ハル蓋シ人間ハ半生或ハ朽ルアルモ教育ノ制度ニ至リテハ年ヲ逐フテ益々其成績ヲ顯ハス之ヲ欧米ノ學史ニ徴シテ其然ルヲ知ル鴻業大圖ハ実ニ永遠ヲ期セザル可カラズ目前ノ瑣事ニ拘泥シテ永遠ノ福祉ヲ失フハ決シテ策ノ得タル者ニアラズ教育ノ制度ヲ勉スルニ於テ豈ニ察スル処ナクシテ可ナランヤ

思フニ教育ノ制度ハ興シガタクシテ類レ易シ既ニ起レルモノハ益々之ヲ保護シ益々之ヲ拡張シ以テ其裨益ヲ弘ムルヲ計ラザル可ラズ歐米ノ政府學政ノ伸張ヲ務メ欧米ノ仁人學事ノ普及ヲ勉ムルモ決シテ故ナキニアラザルナリ我札幌農学校ノ如キモ今ヤ漸ヤク教育ノ力ヲ實利実益ノ壇ニ著ハサントス益々其基根ヲ固ウシ培養止ムコトナクンバ其取獲往日ニ倍スルモノアルベキハ信ジテ疑ハザル処ナリ蓋シ教育ノ制度ニ要スルモノハ時ト資金ナリ之ニ反スニ時日ヲ以テシ之ニ授クルニ資金ヲ以テセバ其裨益ノ及ブ処決シテ測知ス可ラズ我札幌農学校ノ如キモ其經費年々之ヲ國庫ニ仰キテ支辨ス故ニ經濟上ノ組織ハ行政官庁ト異ナラズ雖然元來行政ト學事トハ其分界ヲ異ニシ隨テ經濟ノ別途ニ出ツベキハ至當ナリトス欧米諸國ニ於テハ海

陸兵学校ヲ除クノ外全ク国庫ヨリ出ルモノ甚ダ少ナシ多クハ基金ヲ置キ其收入ヲ以テ経費ヲ辨シ永遠維持ノ方法鞏固ナルヲ以テ一朝国庫ノ空乏ヲ告クルモノ之ガ影響ニ依リ衰頹ヲ来タスノ憂ナク基礎確立時世ノ風潮ニ由ラズシテ独立ノ針路ヲ進行ス故ニ學術ノ蘊奥ヲ窮メ実利ノ普及ヲ図ルニ於テハ其活動ノ範圍広大ニシテ且自由ナルヲ覺ユルナリ我政府勅令第十九号ヲ以テ文部省直轄学校收入金規則ヲ制定セラレ逐次基金増殖ノ方法ヲ設ケラレシハ実ニ明治昭代ノ美事ニシテ教育ノ進歩上賀スベキノ事ナリトス

札幌農学校ノ如キモ收入金蓄積ノ稟裁ヲ得ルトキハ其経済ヲシテ自立セシムルコト難キニアラズ北海道ノ荒蕪地学田ト為スベキモノ多シ若シ其開墾地ノ收入積ンデ基金ト為スヲ得バ今ヨリ二十乃至三十年ヲ期シテ充分ノ基金ヲ作り本校ノ維持ヲ確定スルヲ得ベシ果シテ然ラバ他年地拓ケ民多ク益々教育制度ノ拡張ヲ要スルニ当リ農学校ノ利用単ニ農学校タルニ止マラザルベシ社会進歩ノ理勢拓地殖民ノ進化其是ニ至ルハ決シテ單純理想ノ言ニアラザルヲ信ズ嗚呼本邦ノ財用充足セザル可ラズ農業ノ改良講究セザル可ラズ北海ノ宝庫啓発セザル可ラズ殖民地ノ人材養成セザル可ラズ教育ノ制度拡張セザル可ラズ論ジテ茲ニ至レバ農学校ノ益々北海道殖民地ニ於テ之ヲ今日ニ之ヲ将来ニ徹頭徹尾必要トスルノ理瞭々乎トシテ夫レ明カナリ書意ヲ尽サズ閣下請フ諒察ヲ垂レヨ頓首再拜

〔注〕 末尾に佐藤昌介による次の記事がある。

「明治廿一年何月 日

佐藤昌介

森文部大臣江呈セル意見書」

〔佐藤昌彦氏所藏〕

七〇八 明治二〇年農園事業報告（二二年）

明治廿年農園事業報告上申

自二十年一月
至同十二月年報

札幌農学校所屬農園
①②③④

昨二十年所屬農園事業成績ハ要スルニ左ノ十三項ニ過キス

- 一 業務ノ異動變更
- 二 作業ノ概況
- 三 実習及参考用植物栽培ノ景況
- 四 学生試作試験ノ成績
- 五 果樹栽培ノ景況
- 六 改良及将来施行スヘキ改良事項
- 七 温室
- 八 牧畜ノ概況（附耕牛馬）
- 九 諸製造
- 十 家屋併ニ備付農具及書籍
- 十一 會計

十二 将来ノ目的

十三 ミソマツプ開墾事業成績^(註)

一 業ノ異動變更

昨年中農園業務ノ異動ヲ挙クレハ二月札幌育種場ノ合併アリ次テ四月当園内ニ農芸伝習科ヲ設置セラレ更ラニ又第二部所属墾成地拾七万九千五百十六及荒蕪地六万八千二百〇九坪余ノ交付ヲ得大ニ墾成地ヲ増加ス其増地積ハ十九年耕作地反別ニ比較スレハ殆ント四倍セリ蓋シ傍ヲ該伝習生ノ実習地ニ供スルニアリ十月亦タ更ラニ上請シテ常山溪公道ニ沿フ林地大凡ソ百五拾万坪ノ地積ヲ本校ニ付シ開墾実習地トナス而シテ四月果樹園七百八十五坪二合九勺五ヲ第二部ニ交附ス即チ総地積ハ凡ソ二百拾九万七千九百八十坪ニシテ此内荒蕪地百六十八万六千六百坪墾成地四十八万六千三百八十坪及家屋道路敷地等三万坪許ナリ但シ水田壹万六千二百八十四坪四合ハ人民ニ貸付耕種セシメタリ以上ノ地積ハ未タ実測ヲ經サルケ所アルヲ以テ其梗概ヲ示スニ過キス抑々從來農園事業ノ主眼トスル所ヲ略言スレハ多クハ試験的ノ業務ニ属シ動植物ノ試験ヲ施シ或ハ農用製造ヲナンシ之レヲ実地ニ徴シ之レヲ学理ニ照シ学生ヲシテ之レヲ攻究セシムルノミナラス全道公衆ヲシテ汎ク其結果ヲ知ラシメ洽ク其実利ヲ享受セシメンコトヲ欲セリ故ニ經費ノ多額ヲ要セシハ亦タ万止ムヲ得サル

ニ出タリ然ルニ昨年ハ大ニ從來ノ計画ヲ變更シ一ハ収支の事業ニ係リ専ラ經濟ヲ主トシテ収支損益ヲ審ニシ一ハ農場ノ一部ヲ区画シテ農理的試験農業試作若クハ開墾実習ヲナサシムルニアリ蓋シ試験の事業ハ営ニ一少部ニ止マリ専ラ収支のヲ事トスルニアリ是レ学生及特ニ伝習生ヲシテ規模大ナル一農場ノ經濟相關スル所ヲ辨知セシムルノ必要アルガ為メナリ之レニ由リテ育種場ノ合併アルヤ現業取扱人ヲ減シ事業ノ程度ヲ計リテ其員數ヲ定メ土地ノ広狹ニ応シテ耕牛馬ノ數ヲ限リ或ハ凡ソ器械ノ適數ヲ定メテ予メ事業ノ準備ヲナシ大ニ冗費ヲ節シ從來ノ經費額ヲ省減セリ但シ農具ノ剩余アルモノハ渾テ伝習科ニ分割シテ伝習用ニ供セリ亦タ元育種場ノ建物ハ多ク伝習科ニ付シ教場実習所或ハ生徒舍等ニ充テタリ要スルニ現業取扱人ハ二十五町步名トシ耕牛馬ハ七町ニ老頭ト定メタリ而シテ四月當園事業細則ヲ更制シテ業務ノ順序ヲ定メタリ

二 作業ノ概況

氣候 昨年ハ氣候適順ヲ失シ晩春初夏ノ交寒暖較々至リ加ルニ雨量多クシテ作物発芽後ノ伸暢悪シク亦タ八九兩月ハ例年ニ比スレハ降雨夥シク大ニ收穫事業ヲ阻セリ已ニ九月下浣ニ及テ嚴霜ノ侵ス所トナリ其害ヲ被リ收量ヲ減セシモノナリ

土地 十五年以來排水管ヲ布設シ或ハ溝渠ヲ通シテ土質ヲ改良セシモノ渺カラス今日ニアリテハ全圃三分ノ二ハ已ニ最良ノ耕田トナリ

シモ尚ホ未タ其三分一ハ過濕ニシテ作物ノ耕種ニ適セス是レカ為メ年々幾分カ其収量ヲ減ス

作物 昨年中耕種セシ作物ハ第一穀類七十三町四反五畝〇三步第二根菜類拾四町三反六畝八步第三牧草三拾四町八反五畝拾八步第四雜用植物貳町四反三畝廿三步放牧地十一町五反九畝十三步外ニ実習用各種植物三町七反七畝〇八步八合及ヒ学生試験地二町三反六畝二十九步ニシテ合計百四十二町八反四畝十二步八合ナリ第一穀類ハ小麦大麦裸麦燕麦蕎麦及ヒ玉蜀黍ノ六種ナリ

大麦ノ原種ハ十九年独逸国ヨリ輸入シタルモノニシテ能ク本土ニ適ス蔬菜園ノ後地ヲ秋春兩期ニ犁鋤シ施耕整地シテ五月上浣畦播機ヲ以テ下種ス春期ノ不順ニ拘ラス其發生々育ハ良況ヲ呈ス八月中浣刈禾シ脱稈收納ヲ結了ス耄反歩ノ収量ハ即チ耄石四斗耄升二合ナリ

小麦ハ「白皮白」「赤皮赤」春時（以上ハ種名詳カナラサルヲ以テ仮リニ此名称ヲ付ス）「ウエルウェットチャフ」及ヒ「チャピオンホワキト」ノ五種ニシテ「赤皮赤」併ニ春時ノ二種ハ米国ヨリ輸入シタル新種子ニシテ本年ノ始作ニ係ル其他三種ハ在来種ニシテ其原種ハ俱ニ英米二国ヨリ輸入シタルモノナリ

「赤皮赤」ハ玉蜀黍燕麦及牧草後地ノ三ヶ所ニ区分シテ耕種ス玉蜀黍後地ニハ罌粕及食塩ヲ施シ燕麦ノ後地ニハ単ニ罌粕ヲ用ヒ牧草後地

ハ無肥料ナリ何レモ十九年十月上浣ニ畦播セリ其生育佳良ニシテ能ク繁衍セリ即チ八月上浣收穫ス其収量ハ各区参差アリト雖トモ概スルニ平等ノ作柄ナリ抑々牧草地ハ二番生赤苜蓿ノ叢生セシ所ニシテ之レヲ九月中浣ニ鋤キ込ミタルモノナレハ小麦ノ循環法ニハ最モ適良ナルモノトス其収量ハ他二区ニ比スレハ稍々劣ルト雖トモ肥料ノ代価ヲ計算スルトキハ固ヨリ牧草後地ニ播種シタル小麦ニ利潤アリ実ニ昨年ノ如キ高価ナル罌粕ヲ施用スルトキハ損益相償ハサルノ姿ナリ僅カニ一度ノ耕種結果ヲ以テ断定スルコト能ハサレトモ要スルニ此種ハ本道ニ適応スルモノ、如シ

春時小麦ハ玉蜀黍後地ヲ春耕シ肥料木灰ノミヲ施シテ四月下浣畦播シ八月中浣收穫セリ發生頗ル疎薄ニシテ収量少ナク秋播ニ比スレハ品位劣等ナリ

「ウエルウェットチャフ」及「チャピオンホワキト」ハ収量平等ニシテ「赤皮赤」ニ伯仲セリ然レトモ品質ニ至テハ俱ニ「赤皮赤」ニ及ハス

「白皮白」ハ根菜類及ヒ穀類ノ數種ヲ播種シタル後地ニシテ耄町二反九畝十五步ニ罌粕三石八斗七升ヲ施肥シ十九年十月上浣ニ下種シ八月上浣ニ收穫ス其収量ハ極メテ優等ニシテ耄反歩平均耄石九斗〇七合ニ当レリ品質モ亦タ善良ナリ

概スルニ秋時小麦ハ積雪融解ノ際ニ於テ枯損セシカ為メ多少収量ヲ

減セシト雖トモ尅反歩平均尅石余ノ収量ナレハ中等以上ノ作柄ト云フヘシ

燕麦ハ「ホワキト、レースホールス」及「ブラツクタルタリヤン」ノ二種ニシ俱ニ英國種ナリ元來昨年ハ穀類ニ倚リテ収支ヲ維持セシコトヲ計画セリ之レニ由リテ穀類特ニ燕麦ノ播種反別ハ最も多クシテ各種作物ノ權衡ヲ失シ適良ノ循環法ヲ守ルコト克ハス為メニ燕麦ハ往々連作シタル場所アリ即チ其耕種反別ハ四十町九反八畝〇尅歩ナリ四月下浣ヨリ五月上浣マテニ下種シ八月下浣ニ收穫ヲ結了セリ「レース、ホールス」種ハ「ブラツク、タルタリヤン」種ニ較スレハ生育良好ニシテ収量多ク品質善良ナリ且ツ黒穗ノ被害ニ罹ルモノ少ナシ然レトモ莖稈過生ノ為メ降雨ニ遇フテ倒臥シタルケ所アリ「レース、ホールス」種ハ其収量例年ニ異ナラスト雖トモ凡ソ三町歩ノ燕麦ハ虫害ニ罹リ殆ント皆無ニ屬セシヲ以テ其平均収量凡ソ三割ヲ減セリ「ブラツク、タルタリヤン」種ハ耕地湿润ニ過キタルカ為メ収量ヲ減セリ然レトモ適良ノ耕地ニ栽培シタルモノハ其収量敢テ平年ニ讓ラサルナリ

蕎麥ハ新墾地ニ播種セリ登熟ノ期ニ先チテ嚴霜ノ害ヲ被リ殆ント其収量ヲ半減セリ

玉蜀黍ハ黃色八行ノ一種ニシテ五月下浣ヨリ六月上浣ニ至リテ下種セリ其播種ニハ渾テ点播機ヲ施用セリ其一半ハ牧草ノ新墾地ニ耕種

シ他ノ一半ハ玉蜀黍後地ニ連作セリ是レ作業上万止ムヲ得サルニ出テタリ秋期寒冷ノ至ルコト早カリシカ為メ充分ノ登熟ヲ遂ケサルモノ多シ其収量ハ例年ニ異ナラスト雖トモ卑湿ノ地アリシカ為メ平均収量ヲ減セリ

第二根菜類ハ馬鈴薯胡蘿蔔蕎麥菜防風及玉葱ノ六種ニシテ馬鈴薯及玉葱ヲ除クノ外ハ渾テ牛馬用ニ耕種セリ

馬鈴薯ハ「スノフレーキ」及「オルリロース」ノ二種ニシテ五月中浣ニ種植シ九月中浣ヨリ十月下浣ニ至リテ收納ス種植地ハ玉蜀黍及牧草後地ナリ而シテ牧草後地ハ過湿ニ屬スルモノ大半ニ及ヒ為メニ収量ヲ減セリ「スノフレーキ」種ハ「オルリ、ロース」ニ比スレハ収量多クシテ品位優等ナリ

胡蘿蔔ハ上等作ニシテ蕎麥ト玉葱トハ平等ノ収量ナリ蕎麥ハ収量最も劣レリ

第三牧草ハ春期寒冷ナリシカ為メ生育緩慢ノ色アリシモ漸ク順ヲ得テ繁茂シ六月下浣ヨリ刈草收納ヲ始メタリ其収量ハ例年ニ異ナルコトナシ即チ尅反歩平均千二百四十五斤ヲ得タリ昨年ハ春期耕種ノ時期ニ迫リ十八町余ノ牧草地ヲ新墾シ更ラニ亦タ秋期ニ至リテ五町七反歩ヲ鋤起セリ而シテ卑湿ニシテ他ノ耕作物ニ適セサル圃地尅万二千五百〇式坪ニ五月上浣燕麦ト共ニ牧草種子ヲ播種セリ其種量ハ「チモシ」草種百斤「オルチャルド」草種八十斤及ヒ赤苜蓿種八十斤

合計二百六十斤ニシテ、反歩平均凡ソ六斤二分四厘強ニ当レリ。亦タ同月種子採収用ノ為メ「チモシ」草種「オルチャルド」草種「レツド、トツブ」草種「ブリニューグラッス」種及ヒ赤苜蓿種ノ五種ヲ各々区分シテ、燕麦ト共播セリ。其反別ハ、尅町四反六畝十五歩ナリ。

第四雜用植物ハ南瓜及青刈玉蜀黍ノ二種ニシテ、南瓜ハ發生甚タ惡シク、初秋ニ及テ降霜ノ害ヲ被リ、前後大ニ其收量ヲ減シタリ。

種子 種子採収ノ為メ故ラニ栽植シタル植物ハ十七種ニシテ、其植付反別ハ三畝二十三歩ナリ而シテ、其收量ハ、尅貫三百四十八匁五厘ト六斗二升二合ナリ。亦タ牧草地ノ一部ヲ撰テ「チモシ」草「オルチャルド」草及赤苜蓿ノ三種ヲ採収セリ。其反別ハ、尅町〇六畝ニシテ、收量八拾貫百九拾匁ナリ而シテ、昨年ハ玉蜀黍ノ充分ニ登熟セシモノ少ナキカ故ニ、特ニ其撰種法ニ注意セリ。

害虫 「ハリガネムシ」ハ毎年玉蜀黍圃ニ發生シテ之レヲ害スルコト少ナカラス。為メニ数多ノ人夫ヲ使役シテ、其駆除ニ從事ス。然ルニ昨年ハ玉蜀黍ノ害ヲ受クルモノ稀レニシテ、新タニ牧草地ヲ起シテ、燕麦ヲ播種シタル圃ニ於テ、頗ル其害ヲ逞セリ。五月中旬ヨリ下旬ニ至リテ、燕麦ノ稚苗漸ク二三寸ニ生育シタル頃ニ、其根莖部ヲ侵蝕シ、被害植物ハ忽チ黃色ニ變シ、遂ニ枯死ス。蓋シ牧草地ハ叩頭虫ノ棲息蕃殖スルニ適スル所ナレハ、其後地ハ往々是ノ害ニ罹ルノ例証少カラス。「ハリガネムシ」ヲ駆除スルノ良法ナシ。菅玉蜀黍ニアリテハ、其根辺ヲ掘リテ採

虫駆除スルノ手段アレトモ、燕麦ニ於テハ到底斯ル迂遠ノ法方ヲ施行スルコト難シ。故ニ一度其蔓延スルニ遇ハ、穀類ノ收納ハ得テ望ム可ラス。被害地ハ昨年晩秋ニ及テ、尅反ニ付七十斤ノ割ヲ以テ石灰ヲ散布シ、後チ土壤ヲ鋤起シテ、嚴霜凍沍ノ作用ニ曝露セシメテ、次年ノ予防法トナセリ。

地蚤ハ已ニ第五年報ニ掲タルカ如ク、毎年蕎麥圃ニ發生シテ、其稚苗ヲ咀嚼シ多少其害ヲ及セリ。然ルニ昨年ハ豌豆圃ニ發生シテ、大ニ是レガ登熟ヲ害セリ。八月ノ交ニ至リテ、被害圃中ニ数夜点火シテ、其蛾ヲ誘殺セリ。

馬鈴薯害虫ハ十九年ニアリテ、其害猖獗ヲ極メタリシト雖トモ、駆除其法ヲ得タリシカ、為メカ昨年ハ其害甚シカラス。

病害 「ボント」黴病「チレチャ、カリス」ハ十九年ニ於テ一小区ノ小麦圃ニ發生シ、大ニ損害ヲ被リシト雖トモ、昨年ハ幸ヒニシテ、毫モ是ノ黴病ニ罹リシモノナシ。銹病「ボツクシニヤ、グラミニス」ハ「ボウキトチャビオン」種小麦ヲ侵襲シ、其莖葉ヲ黴化シテ多少其生育ヲ妨害セシト雖トモ、結果ニハ著シキ損害ヲ及サス而シテ、亦タ小麦及燕麦ノ兩種ハ「スモツト」黴病「ユスチラゴ、カルボ」ノ害ヲ被フリシト雖トモ、例年ニ比スレハ、其病毒甚シカラス。是レカ予防法タル播種ノ期ニ際シテ、種子ヲ腐蝕性ノ溶液中ニ浸漬シテ、下種スルヲ常トス。是レニ由リテ多少ノ効力アルヤ、晰カナリト雖トモ、尚ホ完全ノ策ト云

耕 作 物 明 細 表

穀				類											
種類	号	名	反別	播種期日	種量	種類	秤	量	役夫	伝習生	收穫期日	全	圃一反平均	代価	格
米國種	八	黃色	町八、八〇〇	自五月六日	石四、五〇	堆糞	〇	四六	六五	自九月廿七日	三三、〇〇〇	石一、七〇	六四、〇〇〇	二〇〇	石二、〇〇
英國種	ホルリース	ホルリース	八、五三三	自四月廿二日	三、九五五	〇	一七	二〇	三〇	自八月二日	三〇、〇〇〇	一、七三六	六四、〇〇〇	二〇〇	石二、〇〇
燕麥	ブラツクス	ブラツクス	三、三九〇元	自五月六日	一六、七五五	〇	一五	二五	二五	自八月十七日	二七、〇〇〇	一、三八	四三、五〇〇	一、五〇	石一、五〇
米國種	白皮	白皮	一、元五	自九月十三日	〇、七〇〇	鯖粕	〇	二〇	九	自八月十五日	二四、七〇〇	一、九〇〇	一〇、一七〇	四、一〇	石四、一〇
小麥	赤皮	赤皮	二、五〇〇	自十月三日	〇、八四〇	鯖粕食塩	〇	一〇六	二〇	自八月二日	二九、四〇〇	一、〇〇〇	二〇、六三三	四、一〇	石四、一〇
英國種	ホワキト	ホワキト	二、〇〇〇	自十月二日	一、四〇〇	鯖粕	〇	二〇	八	自八月二日	二二、一〇〇	一、〇五〇	二〇、六三三	三、五	石三、五
同	ウエルフエ	ウエルフエ	〇、五七六	同上	〇、六〇〇	同	〇	一〇四	五	自八月十九日	六、七九	一、一五〇	三、三	三、三	石三、三
同	トチャフ	トチャフ	一、五七七	同上	〇、七〇〇	木灰	〇	二四	三	自八月二日	一、七〇	〇、七四〇	三、六	三、六	石三、六
蕎麥	町	町	一、九〇二	七月廿一日	〇、三〇	〇	〇	二	五	自十月六日	九、四〇〇	石〇、八五	一八、〇〇〇	二	石一八、〇〇
獨逸種	一	一	一、七〇〇	五月五日	一、一〇	〇	〇	八	二	自八月十八日	二四、〇〇〇	一、四三三	六、〇	二	石六、〇
大本邦種	一	一	〇、三三	五月十一日	〇、三〇	〇	〇	一六	〇	同	四、八〇〇	一、四四〇	二五、五	三	石二五、五
裸麥	一	一	〇、三三	同	〇、三三	〇	〇	一六	〇	同	一八、八〇〇	一、四二〇	三七、七	二	石三七、七
同	一	一	一、三三	同	〇、三三	〇	〇	一六	〇	同	一八、八〇〇	一、四二〇	三七、七	二	石三七、七

フ可ラス黒穂ハ已ニ其葉鞘ヲ挺出スルヤ忽チ其黒粉ヲ飛散スルハ克
 ク世人ノ知ル所ナリ是レニ由リテ其芽胞ヲ全圃ニ遺シ其生ヲ次年ニ
 保続シ時期ニ応シテ黴糸ヲ生シ植物ヲ侵スノ憂アリ故ニ黒穂ノ將ニ
 挺出セント欲スルヲ窺ヒ圃中ニ入リテ之レヲ拔出スルヲ良法トス然

レトモ昨年ノ如ク耕圃ノ反別數十町歩ノ広キニ亘ルトキハ到底此ノ
 法ヲ施スコト能ハサレハ種子ノ浸漬法ト礦物肥料ヲ施用スルトニ由
 リテ予防スルノ外良策ナカルベシ

小計	根 菜 類								小計
	玉葱	防風	蕎菜	同	蕪菁	胡蘿蔔	同	米馬鈴薯	
	赤黄色 図形		赤黄色 図形	白頭	赤頭	長形	オルロー	スノフレキ	
一、四、一、四〇	〇、三、一〇	〇、三、一〇	二、一〇、二、五	〇、一、〇〇		〇、八、〇〇	二、二、四、二、五	八、四、九、八	七、三、四、五、三
	四月廿六日	五月十四日	自五月十一日 至同十四日	六月七日		自五月十三日 至同十六日	自五月十六日 至六月廿八日		
油粕 木灰 鯖粕	油粕 木灰 鯖粕	油粕 木灰 鯖粕	油粕 鯖粕			油粕 鯖粕			堆糞 食塩 木灰 油粕 鯖粕
四、三、七、〇〇	三、七、一、〇〇	三、三、〇、〇〇	二、四、〇〇			二、五、五、〇〇			七、一〇、四、〇〇
九、七、五	三、三	九	三、六	八	二、四	五、六、六			九、六、六
六、七、七	二、九、自 至同九月十八日	九	六、二、自 至十月十九日	九	二、九、自 至同十一月廿一日	五、〇、自 至十月廿一日			二、一、八〇
五、五、四、一、六、四〇	一、四、〇、八〇	一	一、八、九、五、六、三六	二、六、四、〇〇	七、四、九、四	二、九、五、〇〇	三、五、四、〇〇		一、〇、六、七、四、九
	四、六、〇、〇〇		八、四、〇、三、六	一、三、一、一〇	八、三、三、六、四	三、〇、三、〇〇	二、五、五、〇〇		
一、〇、九、一、三、四、四	二、四、一、八、〇〇		三、〇、三、二、七、六	五、五、五、〇〇	二、九、二、九	四、八、四、八	三、五、三、七、五		三、一〇〇、一、九、六
	二、〇〇		二、〇〇	〇、二、〇	〇、二、〇	〇、二、〇	〇、二、〇	百斤 〇、二、〇	

麦稈ノ収穫高及ヒ昨年秋播キ付ケノ小麦反別ハ以上表中ニ掲ケバサルヲ以テ爰ニ一言ス抑々昨年十月下浣ニ下蒔シタル小麦ハ前ニ述タル四種「赤皮赤」「白白白」「チャンピオンホワキト」及「ウエルウエトチャフ」是レナリ其播種反別ハ渾テ十八町五反九畝ナリ而シテ麦稈ノ収穫高ハ六万千八百貫ニシテ燕麦稈^{〔マ〕}五万二千四百四十貫大麥稈^{〔マ〕}千五百三十貫小麦稈^{〔マ〕}七千五百六十貫及裸麥稈^{〔マ〕}二百七十貫ナリ

三 實習及參考用植物栽培ノ景況

穀菽根菜葉菜蔬菜牧草及纖維ノ六種ナリ
 学生及農芸伝習生ノ実習及参考用ノ為メ種植シタル植物ハ要スルニ

穀菽類ハ悉ク在来種ニシテ菽豆ハ概シテ收納ノ時ニ当リ雨湿ニ遇ヒ

幾分力収量ヲ減シタリ

根菜類ハ馬鈴薯最多クシテ其品質收量等ニ至リテハ素ヨリ各々差異アリト雖トモ要スルニ「スノフレーキ」及「オルリロース」ノ二種ニ比スレハ皆ナ劣等ナリ従来ノ經驗ニ徴スルニ本道ニ栽培スルニハ右二種ニ優ルモノナキカ如シ

葉菜類ハ多ク米國産ニシテ十九年ノ輸入ニ係リ該年ニ於テ播種シタル石刁柏及大黃ノ如キハ昨春ニ至リテ始メテ移植シタリ纖維植物類ハ麻及亜麻ニシテ麻ノ本年ノ栽植ニ係ルモノハ八反歩ナリ採種六反歩採苧ニ反歩ノニニ区分ス俱ニ五月中旬ニ下種ス發芽生暢ノ狀況佳ナリシト雖トモ採種ノ量ハ稍々平年ニ劣レリ元來本種ハ旧開拓使ニ

牧草	牧草	雜	用類		小計	合計
			玉蜀黍	南 瓜		
播	雜	青刈	ハバ ルベ ット マ ン	ホ ッ ト マ ン		
三、八五八		〇、二五〇	三、五〇〇		三七、二五八	二五、〇六元
		五月 廿日	五月 卅日			
—						
—		堆糞	鯖粕	鯖粕	堆糞	油粕 木灰 食塩 堆糞
—		ニコルド	三〇〇貫	三、三〇〇 コルト	二、三〇〇貫	二五、四〇〇 五七、四〇〇 三六、〇〇〇 四、〇〇〇
三九		五	二七		四二	三九二
六九		—	二〇		六九	二五〇
自六月廿日	自十一月廿一日		自九月五日	至		
五〇〇、〇〇〇		三〇〇、〇〇〇	四三、〇八		五九二、〇〇〇	一〇六、六四元 石 貫
一四、四三三、〇〇〇		三〇〇、〇〇〇	二七、七五			
六、三三〇、〇〇〇		三、五〇〇	七五、五〇		三三〇、〇〇〇	四六三、五〇〇
付一ト 六、〇〇〇	同	同	百斤ニ付 〇、二〇			

[illegible]

				類			葉			葉			
同	甜瓜	同	西瓜	大黃	リーク	エンダ	萬萱	塘蒿	石刁柏	ビコ ーラ	トブラ ス、ウ	ブルセ プロ種	米國種
アキスクリム	ブリッズド ハイ	エキセル	アキスクリム	マンモツス	ブロードスコ	グリーン コー	ロワキ トゴル	ボストン、 コ					
				〇	〇	〇	〇	〇	二	七	五		
同	五月十四日	五月十四日	五月十四日	移殖廿四年四月	十九年四月	七月十三日	五月十四日	同四月廿日	同四月廿三日	同六月十日	同五月十六日	播種	移殖六月十日
同	十月十五日	十月十五日	十月十五日		十月十日	十一月五日	七月二日			七月十日	七月十日	十月十日	
一四〇	三〇〇			収穫セス	三五	四八	一三〇	同	収穫セス	二四〇〇	六〇〇		

[illegible]

合		種 類	反 別	収 獲 高	役 夫	種 類	秤 量	肥 料
根菜類	穀菽類							
六、六六六	二、一〇、二〇〇	反		石 九、四八五	人夫 八元 〇			
八、八、六〇〇	九、四八五	石						
一五	八元	人夫						
七	〇							
人堆鯖堆	堆	種						
糞糞粕糞	糞	類						
四、八〇〇	二、〇〇〇	秤						
石	石	量						

計		計	
計	牧草	纖維類	蔬菜類
三、七〇八	三、五〇〇	八、五〇〇	八、二七〇
二四六、〇〇〇	—	〇、一〇〇	一四七、九五〇
三〇	—	六、九五〇	—
三六	—	三	三
人堆鯖木	堆木鯖	堆鯖	堆鯖
糞糞粕灰	糞灰粕	糞糞	糞糞
四、二五、九三	—	二四、〇〇〇	一四、〇〇〇

四 學生試作試験ノ成績
(此ノ項ハ担任教師ノ報告スル所アルヘキヲ以テ爰ニ之レヲ贅セ
ス)

五 果樹栽培ノ景況
現在栽植ノ果樹類ハ林檎、梨、桃、桜、桃李、及、葡萄、等ニシテ
渾テ六十九本アリ其他「ラッスベリー」「グースベリー」「ストロ
ーベリー」及「カラント」等ノ數種ヲ栽培ス而シテ芽接、取木及插
木等ノ繁殖ヲ行フモノ數拾本アリ専ラ伝習生ヲシテ之レヲ実習セシ
メタリ昨春林檎拾余本ヲ温室内ニ移植シタリ其數本纔カニ結実セシ
モノアリシト雖トモ後年ノ損害ヲ怖レ渾テ登熟ニ至ラスシテ採取セ
リ其他ハ皆ナ稚木ニシテ未タ結実スルモノナシ昨春雹反歩余ニ「ス

トロベリー」ヲ分株セリ亦タ梨及林檎砧木數百本ヲ栽植シテ生徒ノ
実習用トナス

六 改良及將來施行スヘキ改良事項

元育種場ノ屬地ト農園ノ耕圃トハ小流ヲ帶ヒタル沼沢地ニ由リテ自
カラ天然ノ境界ヲナセリ故ニ其合併アルヤ兩圃ノ通路極メテ不便ヲ
生ス是レニ由リテ最良輕便ノ場所ヲ択テ道路ヲ新設スルコト六百十
一尺ナリ又十九年ニ於テ當園ニ屬スル天然放牧地ハ悉ク第二部ニ
交附セシヲ以テ昨春消雪ヲ俟テ更ラニ所屬荒蕪地ニ五百間余ノ新柵
ヲ設ケ凡ソ七万坪ヲ區劃シテ放牧地トナセリ亦タ牧場ノ木柵ヲ改築
セルモノ二百四十七間アリ而シテ昨年中林地ヲ新墾シタル反別ハ三
千坪ナリ是レ主トシテ伝習生ノ実習ニ由ルモノナリ昨秋卑湿地殆ン
ト二町歩ヲ撰テ排水管ノ布設ニ着手セシモ偶々積雪ニ際シ其業ヲ阻
セラレ遂ニ該年中之レヲ成功スル能ハス夫レ將來施行スヘキ改良ノ
要点ヲ拳クレハ第壹土質ノ改良是レナリ已ニ前ニ述タルカ如ク現在
ノ耕圃凡ソ三分ノ一ハ過湿ニ屬シ年々損失ヲ被ルコト尠ラザレハ目
下之レカ改良法ヲ施スハ當事業上ニ取リテ須要ノ關係ヲ有スルモノ
ナリ然レトモ此ノ事業タル經費ノ多額ヲ要スルモノナレハ漸次經濟
ヲ計リテ施行セントス第二ニハ林地ノ養成ヲ計ラサル可ラズ當園所
屬荒蕪地(ミソマブ開墾地ヲ除ク)ハ僅カニ二十万坪余ニ過キスシ
テ今日ニアリテ已ニ薪材ノ欠乏ヲ告グルニ至レリ是レ年々其數百數

ヲ消費スルヲ以テ當園ノ經濟ニ関スル勘カラス故ニ予メ林地ヲ定メ之レニ有用ノ樹木或ハ雜木ヲ栽植シ林木ヲ養成シ當園所用ノ木材及薪材ヲ供給スルノ本源ヲ創始スルハ今日ニ於テ將來ノ經濟ヲ圖ルニ肝要ナル事トス漸次經費ノ便宜ヲ度リテ之レニ着手セントス

七 温室

温室ハ從來博物館ニ屬セシモ事業上ノ便利ヲ圖リテ昨春四月當園ニ合併セリ學生々徒參考用花卉類植物ノ外昨年ハ更ラニ菓樹苗木及蔬菜類ヲ栽培シテ生徒ノ実習ニ供シ併セテ當園收入ノ一助トナセリ該年中中下ケタル花卉類ハ四十三種ニシテ七百四十壹個アリ而シテ私下用ノ為メ繁殖シタル數ハ九百四十八鉢ナリ當室ニ備付ケタル參考用各種植物ノ現在數ハ^(十二月)_(三十一日)百七十壹種ニシテ六百四十六鉢アリ

八 牧畜概況(附耕牛馬)

牧牛

種類 牧牛ノ種類ハ純粹「アキシヤ」種「短角」種「アキシヤ」雜種及ヒ短角雜種ノ四類ニシテ即チ各種ノ増減ハ下表ニ詳カナリ
 産殖 昨年繁殖セシ犢牛ハ渾テ拾貳頭アリ蓋シ産殖ニ適スヘキ牝牛ハ純粹「アキシヤ」種八頭純粹「短角」種壹頭「アキシヤ」雜種及「短角」雜種各二頭合拾三頭ニシテ此ノ内受孕セサルモノ純粹「アキシヤ」種壹頭「短角」雜種壹頭アリ余ハ悉ク分娩ス但シ「アキシヤ」雜種壹頭ハ二回産出セリ之レニ由リテ觀ルトキ繁殖比率頗ル良

況ヲ呈ス

飼養 養法ハ從來ノ慣行法ニ異ナラス飼料ハ乾草玉蜀黍及燕麦ヲ基トシ夏期ハ之レニ青草ヲ増シ冬期ハ之レニ苜蓿、蕪菁、南瓜、甘藍防風麩及糖等ヲ加与ス昨年ハ春期寒冷ナリシカ為メ牧草生長緩慢ニシテ放牧期日ハ例年ニ比スレハ殆ント二週間ヲ後レタリ而シテ十一月十四日ニ至リテ舍飼セリ

健康 概スルニ牧牛ハ一二ヲ除クノ外ハ皆ナ健全ニシテ最モ良況ヲ呈セリ疾病ニ罹ルモノ純粹「アキシヤ」犢牝壹頭アリ亦タ同種牝牛頭ハ管骨ニ刺傷ヲ受ケ腐骨症ヲ続發シ已ニ數ヶ月間治療スルモ尚ホ未タ全癒ニ至ラス而シテ「アキシヤ」雜種犢牝壹頭ハ舉丸割去続發症ノ為メ斃死セリ

搾乳ノ景況

昨年中搾乳シタル量ハ百〇三石八斗五升〇五勺ニシテ産乳セシ頭數ハ十三頭ナリ七月ニ於テ分娩セシモノ多キ故ニ八月ヨリ十二月ニ至ル五ヶ月間ハ搾乳ノ量最も多シ而シテ各種一ヶ月間ノ搾乳最多數ヲ挙クレハ左ノ如シ

純粹「アキシヤ」種 三石三斗五升三合

短角種 老石五斗六升二合五勺

「アキシヤ」雜種 老石三斗四升五合

短角雜種 老石式斗八升八合

今マ「アキシヤ」種牝牛ニ付十九年ヨリ二十年ニ跨ル其搾乳期限ト乳量トヲ示セハ則チ

第四号(号名第廿三フローラ)ハ明治十一年米國ヨリ輸入シタル搾乳用最適ノ牝牛ニシテ其搾乳期限ハ十九年七月ニ起リ二十年四月ニ至ル十ヶ月間ニシテ即チ十六石六斗壹升ヲ搾取セリ

第拾壹号(号名竹)ハ(第廿三フローラ)ノ産出ニ係リ其骨格産乳力ニ至リテハ実ニ之レニ譲ラサルノ良牛ニシテ当園産第壹等ノ優物タリ其搾乳期限二十年五月ニ始リ二十一年一月ニ終リ実ニ九ヶ月間ニシテ十八石六斗貳升八合ヲ收入セリ

第十七号(号名倉)モ亦タ(第廿三フローラ)ノ裔孫ナレトモ(竹号)ニ比スレハ位格頗ル劣ルモノニシテ其搾乳期限ハ十九年八月ヨリ二十年七月ニ至ル十二ヶ月間ニシテ十一石八斗〇五合ヲ得タリ

第二十壹号(号名二代竹)ハ「竹号」ノ生産セシモノト雖トモ其産乳力ニ至リテハ遙カニ之レニ劣レリ然レトモ其生乳期限ハ著シク長シトス即チ十九年三月ヨリ二十年三月ニ至ル十三ヶ月間ニシテ十石壹斗七升五合五勺ヲ搾出シタリ

第十八号(号名森)ハ第壹号「ロニチー」ノ産出セルモノニシテ其搾乳期限ハ十九年六月ヨリ二十年二月ニ至ル九ヶ月間ニシテ纔カニ五石五斗五升八合五勺ヲ得タリ抑々壹号「ビニチー」号ハ十一年「廿三フローラ」ト共ニ米國ヨリ輸入シタルモノナレトモ其系統ハ

全ク異ナリ其産乳力等ニ至リテハ「廿三フローラ」ニ匹敵スルコト能ハス其産児ニ於テモ亦タ斯クノ如ク其力ニ乏シ夫レ飼養管理ノ良否如何ニ因テ産乳ニ差異ヲ生スルハ言ヲ竣スト雖トモ其系統如何ニ関シテ産乳力ニ大差アルハ是レ誣ユヘカラサルノ例証タリ蓋シ牧畜者ノ宜シク註意スヘキ要点タリ

養豚

当園豕養ノ種類ハ「チエスタルホワキト」種一回雜種二回或ハ退却雜種等ニシテ其繁殖ハ良況ヲ呈シ昨年中産出セルモノハ五拾五頭ニシテ此ノ内三頭斃死ス其飼養法ハ夏期ハ専ラ荒蕪ニ放牧スルヲ主眼トシ冬期ハ玉蜀黍及馬鈴薯ヲ基トシテ穀菜類ノ廢棄物ヲ給与ス而シテ牛馬ノ頭數ニ応シテ適當ノ豚數ヲ定メ家畜房害内ニ放養スルハ例年ニ異ナラス昨年十月下旬ヨリ重腿用闊豚ノ肥胖ヲ施行セリ是レ傍ラ学生及伝習生ヲシテ実習セシメタリ其結果ハ未タ審ラナサルヲ以テ次年報ニ掲クベシ

耕牛馬

耕牛馬ノ現在數ハ耕牛七頭耕馬十六頭合廿三頭ナリ昨年ノ増減ヲ示セハ昨年中売却シタル耕馬四頭及耕牛三頭合七頭又購入シタル耕馬壹頭

九 製造

昨年中製造シタルモノハ牛油煉乳「シヤム」及「ゼリー」ノ四種類

一 金六拾壹円拾六銭
一 金三拾円八拾貳銭貳厘
運搬費
修繕費

合計 金三千八百八拾壹円貳拾六銭六厘
実収入

品目	数	量	代価
燕麥	三七二石	五六〇	六九一九一六
小麥	九六二	二八一〇	三八一〇九六
大麥	四五八	一七三三	一二六九一五
玉蜀黍	二二一	五七〇〇	二〇三五五二
裸麥	三〇〇	二二〇〇	八九一五九
雜穀	五二七	七七〇〇	一六〇八六九
牧草	三六九	四六五四〇〇	九二四八四七
麥稈	一〇二	四〇〇〇	一二五一七八
馬鈴薯	四五六	四四〇〇	八八五四〇
小計	五一七三二貫	八一八石五	二七九二〇七二
葉根菜	三三〇七貫	三四四〇〇	五九一八八
牧草種子	一三一	九四〇〇	九九四〇二
蔬菜種子	一七〇	五五二	二二二二八〇
小計	三四五六三三九二		三八九八七〇

花葬類	動物類	牛乳	牛酪	各種製造品	合計
三八石	七四一個	一五頭	五三六四〇貫	一六三八一六〇	三八五二一九七
六四三〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	二二四七二〇	七四五一六	
	五〇一〇〇	八〇四六〇	二一八〇五九		

以上掲ケタル経費額ハ昨年中實際ノ支出高ヲ表スモノニシテ之レニ伝習生ノ実役ニ対スル金員六百拾七円ヲ積算スレハ即チ金四千四百九拾八円二拾六銭六厘トナル之レヲ実収入金三千八百五拾貳円拾九銭七厘ニ対照スルトキハ収入ノ不足ヲ生スルコト金六百四拾六円五銭九厘ナリト雖トモ實際土壤道路木柵等ノ如キ永久ノ改良事業ニ消費シタル金員併ニ農具ノ購入ト動物ノ増殖等ニ由リテ資産ヲ増加シタル金額ヲ実収入金ニ加算スルトキハ即チ作業上金百五拾七円拾銭貳厘ノ収得アルモノニ等シ其計算ヲ挙クレハ左ノ如シ

借方即チ経費	貸方即チ収入ニ属スル分
摘要	摘要
金員	金員
明治廿年支払正金 四六六六六	明治廿年実収入ニ属スル正金 三六三二七

取得ニ属スル分	一七〇三	同農具購入ニ係ル分	六四三六
同動物ノ増殖ニ属スル分	三、四〇〇	同改良事業ニ係ル分	二、四〇五
同製造物品ニシテ未 タ販売セサル分	二、七六〇	同製造物品ニシテ未 タ販売セサル分	四、五三六

夫レ昨年四月以降事業上ノ計画ヲ改メシヨリ当園ノ経費ヲ節減セシモノ從來ノ経費額ニ比スレハ頗ル大ナリト雖トモ四月以前即チ一月ヨリ三月ニ至ル三ヶ月間ニアリテハ其経費ヲ要セシモノ自カラ多キカ為メ昨年中ノ実収入ハ支出金額ニ対シテ不足ヲ生セシ以所ナリ然ルニ当園収支の事業ハ昨年四月一日ヲ以テ起始シ多少実収入ノ純益ヲ収メタリト雖トモ其結算報告ハ會計年度ヲ以テ開陳セントス抑々昨年ノ支出高ヲ十九年度当園及元育種場ノ経費合額金八千円余ニ比較スレハ其半額ニ過キス蓋シ其減額ハ主トシテ雇人費營繕費及ヒ雜費ノ三科目ノ減省ニ係ルモノナリ

十二 将来ノ目的

当園ノ墾成地ハ已ニ述タルカ如ク凡ソ五万坪許ノ荒蕪地ヲ新墾スルニ至レハ全ク其業ヲ完結スルモノニシテ其地積ハ大略百六拾町余ニ達ス此ノ内拾町歩ヲ区劃シテ学生々徒ノ試作試験及參考用植物ヲ栽培スル所トナシ他ノ百五拾町歩ヲ収支の事業ヲ經營スル所トシ学生

及伝習生徒ノ參考ニ供スルノミナラ傍ラ本道殖民ノ模範トナサントス且ツ荒蕪地三拾町歩ヲ林地トシ更ラニ其四拾町歩ヲシテ放牧場トナシ是レニ由リテ漸次一定ノ農場ヲ組織セントス但シ林地ハ既墾地積ノ五分ノ一トシ放牧地ハ凡ソ其三分一トス爰ニ将来歩ヲ追テ履行スベキ当園事業ノ要点ヲ挙クレハ

第一学生特ニ農芸伝習生ヲシテ農業ニ関スル百般ノ業務ヲ實習セシメ其好結果ヲ得ルハ亦タ學術ト共ニ頗ル必要ナルコトハ贅言ヲ俟スシテ明ナリト雖トモ今日ニ在リテハ未タ全ク之レニ供フルノ準備整頓シタリト云フ可ラス矧ンヤ晩今農理ノ進歩実ニ著シク亦タ隨テ是レヲ實際ニ応用シテ其実益ヲ取得スルノ偉大ナルコト未タ曾テ今日ノ如ク隆盛ナル時アラザルニ於テラヤ故ニ増々進テ其學理ト実利ノ関スル所ヲ探究スルノ余地アラサル可ラズ而シテ目下生徒ノ演習上必要ヲ感ズルモノ菓木園ノ欠典是レナリ抑々本道ニ於テ林檎梨等ノ如キ菓樹能ク適應シテ美果ヲ呈スルハ已往ニ徴シテ明知スル所ニシテ後來本道ノ一物産トナリテ南邦ニ輸出シ本道ノ一富源トナルヤ疑フ可ラサルナリ現今是レカ栽培ヲ企図スルモノ頗ル多キハ其苗木ヲ購求スルモノ夥多ナルニ由リテ徴知スル所タリ然ルニ菓樹栽培ノ景況ヲ窺フニ其適法ヲ失スルモノ殆ント皆然リ為メニ収ム可キノ利益ヲ収ムルコト能ハサルヤ知ルヘキナリ例令ヘハ栽培其法ヲ失スルトキハ五年ニシテ結実スルモノモ其二倍ノ年数ヲ經テ漸ク纔カニ結実

スルカ如ク又甘味美質ノ果実ヲ產生スルニ適スル種類ト雖トモ粗硬劣悪ナル品物ヲ付クルニ過ギサルカ如キ状態アリ是レ伝習生等ヲシテ其栽培管理法等ニ通曉セシムルヲ要スル所以ナリ前ニ述ヘタル如ク果樹ノ栽植ナキニアラザレトモ末タ果樹園ヲナサルカ故ニ其演習上大ニ不利益ヲ感スル歟カラス是レヲ以テ凡ソ二町歩ノ圃場ヲ撰テ本年ヨリ漸次各種ノ菓木ヲ栽植シテ一定ノ果樹園ヲ構成セントス又園芸園モ実ニ生徒ノ実習上欠ク可ラサル必要ナルモノニシテ現ニ栽植スル所ノ実習用植物ノ外更ラニ本道ニ適スルモノヲ拾ク蒐集栽培シテ傍ラ其結果ヲシテ汎ク告知スルコトアラントス且ツ此等ノ種子ヲ採取シテ一ハ人民ノ便利ヲ計リ一ハ當園收入ノ一助トナサントス

第二収支の事業ハ亦タ學術及實際ニ関シテ探究スヘキ頗ル緊要ナル事項アルハ多言ヲ要セス已ニ今日ニ於テ須要ナル一論題トナル所ナリ其疑点ノ重要ナルモノヲ掲クレハ即チ

第壹 本道ノ拓地殖民ハ本邦精農法(インテンシブ・フアミング)ト泰西農業法ト

其何レヲ可トスル哉

第二 本邦精農法ナレハ小作法ヲ可トスル歟將タ独立農ヲ可トスル歟

第三 泰西農業法ナレハ何種ノ農業最モ適スルモノトスル歟

第四 泰西農業ヲ經營スル最適ノ程度ハ如何

以上ノ論題タル民度地理地形風土等ヨリ考案ヲ下シテ更ラニ実檢ト經歷トニ徴シテ断定スベキハ勿論ナリト雖トモ第壹及第貳ニ就テ其本道ニ適スルヤ否ヤヲ判定スルハ從來本邦慣行ノ經歷ニ由リテ一片ノ計算ヲナストキハ明瞭ナルカ如シ然ルニ第三及第四ニ至リテハ頗ル實際ヲ經ルニ非レハ容易ニ判定スルコト難シトス

夫レ當園ニ於テハ泰西中等ノ農場(百町以上式百町以下ノ農場ヲ云)ヲ模範トシ酪農事業ヲ經營センコトヲ計画シ昨年ニ於テ已ニ其端緒ヲ開キント雖トモ去ル十九年ニ於テ蓄牛頗ル減少セシカ為メ容易ニ其企圖スル所ノ程度ニ達スルコト能ハス故ニ其適度ニ増殖スルニ迫テハ混同農業ニ從事シ年ヲ追テ酪農ニ漸進變更セントス蓋シ親牝牛百貳拾頭ヲ基礎トシ其他犢牛及ヒ豚ノ數拾頭ヲ參養シ收入ノ一部ヲ補助シテ經濟ヲ維持セント欲スルニアリ

是レニ由リテ當園ノ事業ハ漸ク年ヲ經ルニ随テ以上ノ論題ノ内左ノ三点ニ就テ解説シ得フルニ足ルヘキ實証ヲ徴スルニ至ルハ固ク信スル所ナリ即チ混同農業牧農併ニ酪農ノ適否及ヒ經濟是レナリ而シテ当初企圖スル所ノ酪農ハ當園現在ノ畜牛頭數ヲ以テ其蕃殖ヲ推算スルトキハ是レヨリ九ヶ年後ニ非レバ從來スルコト克ハサルナリ即チ其蕃殖比率ヲ別表ニ示ス

自明治廿一年
 至同卅一年
 畜牛蕃殖表

計	短 角 種 雜 種		ア キ シ ヤ 種 雜 種		短 角 種		ア キ シ ヤ 種		種 類		年 次
	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	母親	明治廿一年	
	三	三		二		二	一	一	二	八	母親
	四	四			三	一	一			三	歳二
	三	四	一		一	一	一			三	歳一
											換更
	一〇	二	一	二	四	四	三	一	二	一四	計
	三	七		二		三	一	一	二	二	母親
	一	四				一	一			三	歳二
	五	七		一	一	一		一	四	四	歳一
											換更
	九	二六		三	一	五	二	二	六	一八	計
	三	三		二		四	一	一	二	一四	母親
	二	七		一		一		一	二	四	歳二
	八	六	一		一	一	一		五	五	歳一
											換更
	一三	三四	一	三	一	六	二	二	九	二三	計

計		短 角 種 雜 種		ア キ シ ヤ 種 雜 種		短 角 種		ア キ シ ヤ 種		種 類		年 次
										母親	同	
牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	母親	同	廿 三 年
三	二六		二		五	一	二	二	二七	歳二	計	
三	六				一	一		二	五	歳一		
一〇	一〇	一		二	二		一	七	七	換更		
	二		一						一	計		
一六	四四	一	三	二	八	二	三	二	三〇	母親	同	廿 四 年
三	三三		二		六	一	二	二	三	歳二	計	
三	一〇				二		一	三	七	歳一		
二	二		一	二	二	一		八	八	換更		
一						一				計		
一八	五五		三	二	一〇	三	三	三	三七	母親	同	廿 五 年
三	四〇		二		七	一	二	二	元	歳二	計	
六	一一		一	一	二	一		四	八	歳一		
一四	一四		二	一	二		一	二	二	換更		
一	二				一		一	一		計		
二四	七	一	三	三	三	二	四	八	四			

計		短 角 種 雜 種		ア キ シ ヤ 種 雜 種		短 角 種		ア キ シ ヤ 種		種 類		年 次
										母親	同	
牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	母親	同	廿 六 年
三	五		三		九	一	二	二	三	二	廿	
六	一四			一	二		一	五	二	一	六	
九	一八	一	一	三	三	一		一四	一四	換	年	
										計		
二六	八三	一	四	四	一四	二	三	二	三			
四	三		二		一〇	一	三	三	四	母親	同 廿 七 年	
九	一八		一	一	三	一		七	一四	二		廿
一四	二三	一		四	四	一	一	八	一八	一		七
	二				一				一	換		年
三七	一〇五	一	三	五	一八	三	四	二六	八〇	計		
四	九		三		二三	一	三	三	六	母親		同 廿 八 年
三	三			二	四	一	一	九	一八	二	廿	
三	三	一	一	五	五	一	一	二四	二四	一	八	
	一								一	換	年	
四七	三四	一	四	七	三	三	五	三六	一〇三	計		

備考

- 蕃殖ノ比率ハ毎年親牝牛ヲ十分ノ八トス
 ○ 親牝牛ハ各種共三ヶ年ニシテ始メテ分娩スルモノトス
 ○ 牝牛牝ハ其繁殖シタル半数ヲ次年ニ越スモノトス

〔注〕「十三 ミソマップ開墾事業成績」は欠落している。

年次		種類	アキシヤ種		短角種		アキシヤ種雜種		短角種雜種		計	
同 廿 九 年	母親	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
	歳二	五	三	四	一	七	二	三	一	九	五	四
	歳一	三	三	一	一	五	六	一	一	三	六	五
	換更	三								三		
	計	一三	四	六	三	一六	八	五	一	二七	三	七
同 卅 年	母親	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
	歳二	九	三	五	一	三	四	一		一〇	六	四
	歳一	三	五	一	一	六	八	一	一	三	五	九
	換更											
	計	一六	八	六	二	一〇	一二	六	一	二八	一	三

七〇九 明治二〇年農芸伝習科業務成績報告（二年）

昨二十年伝習科業務成績表

自明治廿年三月
至同十二月 農芸伝習科報告

昨年三月道庁令第八号ニ拠リ更ラニ本校ニ農芸伝習科ヲ設ケラル其目的タル道庁管下農民ノ子弟^(A.P.)ニシテ後來望ヲ屬スヘキモノ若シクハ本道ニ於テ開墾起業ノ企テアルモノヲ普ク募集シテ西洋農業法ヲ適用シテ本道適切ノ農業法ヲ伝授シ模範農家ヲ養生シ大ニ将来農業上ノ改良進歩ヲ図ラントスルニアリ

三月廿三日始メテ管下一般ニ告示シテ該生徒ヲ募集ス之レニ応スルモノ総テ六十五名ニシテ試験合格者二十五名ヲ撰拔シ五月一日ニ至リテ之レヲ入舎セシメ外ニ員外生二名ノ入学ヲ許可セリ次テ八月更ラニ員外給費生二十五名ヲ募ル之レニ応スルモノ三十七名アリ九月一日ニ至リ之レヲ入舎セシム而シテ前後生徒ノ變動ヲ挙クレハ退校ヲ許可シタルモノ七名内四名ハ給費生三名ハ員外生ナリ又成業ノ望ナキヲ以テ退校ヲ命シタルモノ七名アリ給費生補欠員トシテ入学ヲ許可シタルモノ貳名及予備科ヨリ員外生ニ転シタルモノ貳名アリ則チ十二月三十一日生徒現在員數ハ給費生十四名員外給費生二十四名及員外生二名ニシテ都テ五十名トス

○四月当科ヲ所屬農園内ニ置キ本庁ニ稟議シ元農業事務所ノ交付ヲ

得テ更ラニ修理ヲ加ヘ之レヲ当科ノ事務所トナシ而シテ其一部分ト元育種場事務所ヲ教場ニ充テ元雜物庫ヲ修理シテ生徒舎トナシ予シメ当科開始ノ準備トナス且ツ農園ノ農具ヲ分割シテ之レヲ当科ニ付シ伝習用トナス八月再ヒ員外給費生ヲ募集スルニ當リ生徒舎狹隘ナルカ為メニ元現業取扱人官舎ヲ改造シ之レニ増築シテ生徒舎トナセリ

○五月当科ノ學業科程実習規則及生徒内則ヲ制定シ伝習生ヲ始メタリ抑々其大要ヲ述レハ積雪中ニアリテ事業閑隙ナルトキニ各種農業法ニ必要ナル簡易ノ農理ヲ講明シ稼穡ノ時期ニ際シテハ主トシテ農園ノ園圃ニ就テ実業ヲ演習スルニアリ而シテ実地執業スルニ當テハ一々事物ニ付テ叮嚀ニ解説ヲナシ生徒ヲシテ能ク之レニ通曉セシメ且ツ業務ノ秩序本末ノ聯給スル要点ヲ明示シ大ニ農場經濟ノ関スル所ヲ領會セシムルヲ務メタリ

昨年中伝習シタル事項ノ概況ヲ掲クレハ即チ第一期ニ於テ各種鋤犁整地機具播種機耘耨器收穫機製乾草機飼料用具運搬用機其他普通農具ノ運用法耕牛馬ノ使役法農馬ノ装着法穀菽根葉菜蔬及ヒ特有植物類ノ栽培收納及貯藏法普通種子用植物ノ栽植及採種法乾草收納法菓樹接芽法葡萄栽培法畜取扱法牛油製法ニ「シヤム」及ヒ「ゼリー」製造法林木地ノ開墾法等ヲ実習セリ第二期ハ午前ニ學理ヲ講授シ午後ニ実地ヲ演習ス但シ此ノ期中ニ講述スル所ノ學術ハ化学原

理、農用植物、土壤論、肥料論、農具論、普通及ヒ特用植物耕種各論、害虫駆除法、排水、及拓地法、果樹栽培法及農家簿記ノ諸科目ニシテ已ニ該年十二月中ニ在リテ其一部分ノ講議シ結了セリ又同月中ニ製肥法、家畜飼養法、牛油及煉乳製法、排水法、農馬具ノ修覆、農具ノ組立等ヲ実習シ畢レリ苟モ彼ノ農業法ヲ適用シテ本道農業上ノ改良ヲ図ラントスルニハ耕牛馬使驅及農具運用法ノ熟達ハ實地上第一ノ主眼トスルヲ以テ是レカ伝習ヲ反覆施行シ全生徒ヲシテ充分ニ是レニ練達スル事ヲ務メタリ且ツ開墾ノ実業ハ將來生徒ノ為メ最も肝要ナルモノナレハ其施行順序手続等ヲ綿密ニ実習シタリ

○生徒中從來農業ニ従事セシモノ尠ラスト雖トモ亦タ小学教員授業生等ニシテ転シタルモノアリ斯クノ如キモノニアリテハ前後職業ノ變遷甚シキニ拘ラス實地就業時間ノ長キト其働作ノ困難ナルコト近村普通農家ノ力役ニ比スレハ大ニ勝ルノ情勢ナレハ其入學ノ当初ニ際シテ倦惰疲勞ノ情態アリ為メニ疾病ヲ発シタルモノ尠カラスト雖トモ漸ク其身体働作ニ慣ル、ニ随テ其面目ヲ一變セリ概スルニ生徒ハ順良熱心ニシテ能ク実習ノ業務ニ堪ヘ其進歩著シク大ニ良成績ヲ呈セリ然ルニ員外給費生ハ第一年給費生ニ比スレハ其力量較々劣レリ是レ伝習上充分ノ結果ヲ表ハササルモノアリ蓋シ年少ニシテ体格未タ備ハラサルモノアルカ為メナリ故ニ次年ヨリ學術ハ稍々劣ルモ体格強大ニシテ年長ノモノヲ撰拔募集セントス

○七月三日岩村長官各理事官ヲ隨ヘ農園ニ臨場シ親シク伝習科生徒ノ開墾法乾草法等ノ実習ヲ閱覽セラレ實地上ノ下問アリタリ

○生徒ノ姓名及原籍ハ左ノ如シ

原籍	姓名	原籍	姓名
第一年給費生			
道庁札幌郡	久慈 市太	兵庫郡	織田 恭也
道庁空知郡	柿本 敏光	道庁札幌郡	吉川村三郎
新潟県	早川範五郎	新潟県	滝沢 重華
道庁札幌区	榎 鍛	熊本県	山室 朝行
道庁空知郡	松川浅次郎	埼玉県	金子善之助
道庁札幌区	塚田 三郎	道庁久遠郡	林 元太郎
同 石狩郡	千葉 勤弥	同 室蘭郡	村上 儀助
同 茅部郡	大嶋 鍛	同 余市郡	文屋 延一
秋田県	平山 龍造	茨城県	小橋岩太郎
道庁岩内郡	北村外次郎	同 寿都郡	鹿内甚之助
同 静内郡	上田半之丞	愛知郡	阪 半之丞
新潟県	石垣金一郎	道庁札幌郡	上田 勇吉
同 余市郡	員外生 木村東次郎		
員外給費生			
道庁札幌郡	平沢 耕平	新潟県 札幌区	今井与三郎

道庁茅部郡	從二 運藏	同 釧路郡	野村実太郎
同 檜山郡	木村 浅藏	同 上磯郡	安藤円次郎
同 札幌郡	平沢 利作	同 上磯郡	松本竹三郎
同 厚岸郡	入江幸太郎	青森県 札幌区	佐々木新兵衛
道庁釧路郡	橘 志賀藏	同 高島郡	藤田健次郎
同 砂流郡	国分 茂八	新潟県 札幌区	高橋 莊治
山形県 札幌区	森 寿三郎	道庁札幌郡	金田一金太郎
新潟県 樺戸郡	早川理八郎	道庁河西郡	山本 金造
同 茅部郡	和賀金次郎	道庁根室郡	徳力十次郎
福岡県 札幌郡	松岡 作馬	道庁札幌区	宮嶋鉛次郎
新潟県 札幌区	阿部常次郎	道庁千歳郡	周田 弥一
山口県 札幌区	員外生 毛利 倭		

計 五十人

内 給費生四十八人
員外生 二人

○二十年十一月第一期実習定期小試験評点及該年中勤務左ノ如シ

試験及勤務表〔略す〕

次表ハ当科ノ参考図書類ニシテ和漢及翻訳ノ三種類ヨリナリ多クハ
農園及元育種場ノ備付ニ係ルモノニシテ其増数ハ昨年購入シタル分
ヲ示ス其購入代価ハ即チ金六十七円八十四錢五厘トス

図書表

計	農書類 經濟書類 化学及鉱物書類 物理学書類 獸医学書類 工芸書類 植物書類 動物書類 医薬書類 地理書類 百科全書 字書類 報告書類 図説類 雜書類	図書部類		原 数	增 数	現在数
		部数	冊数			
二〇八六八七	一五三一七三三三二八一一四三一一三	五九二〇六				
八一五	四二一二九三五六一二九	一一一				
五二一三〇二六〇八一七	一一一一一一一四二二一三三六二五	三三二七五				
二六〇八一七	一五三一一七三三三二〇一五三一一三三七二二三	九一二八一				

次表ハ本邦及西洋普通農具ニシテ生徒ノ参考併ニ伝習用ニ備ヘ付ケ
タルモノナリ該年購入シタルモノハ単ニ検乳器壹個ニシテ其代価ハ
即金拾四円ナリ

明治 21 年

農具表

計	器 名		器 名	
	種類数	員 数	種類数	員 数
二 一 一 〇 八 五	耕鋤器械	三三	製麻器械	一七〇
	耘耨器械	一六	芦粟製造器械	八六
	播種器械	二	排水管製造器械	三
	收穫器械	二三	果実乾燥器	一四
	運搬器械	七	度量器	三二
	開墾器械	一九	器械附屬具	一五
	飼畜用器械	四	牛馬具類	五
	園芸器械	九	牛馬裝飾器具	二
	製乳器械	二	牛馬具修覆器	一五
	檢乳器	一	雛形見本類	二
	澱粉製造器	五	雜具類	四四
		八〇		一三六
		一		一九
		八		一
		三五		二九

〔農八五二〕